

対象校No.
注4

学校コード F123310106773
注3

設置年度 令和 6年度

計画の区分： 学部の設置
注1

届出

注2
桜花学園大学 国際学部 国際学科

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

学校法人桜花学園
令和7年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	学務部教務課
職名・氏名	ガクセイシエン 学生支援課長 ハラダ トモコ 知子
電話番号	0562-97-5503
(夜間)	0562-97-5503
e-mail	j-kyomu@ohkagakuen-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

4 対象校No.については、「【別紙】令和7年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

国際学部

＜国際学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	18
4. 既設大学等の状況	19
5. 教員組織の状況	20
6. 附帯事項等に対する履行状況等	34
7. その他全般的事項	36

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人 桜花学園

(2) 大 学 名

桜花学園大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒470-1193
愛知県豊明市栄町武侍48

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	オオタニ メグム 大 谷 恩 平成17年10月		
学 長	オオタニ タカネ 大 谷 岳 平成29年4月		
学 部 長	ト ウンジン 都 恩珍 令和6年4月		
学科長等	イシワタ マサユキ 石 渡 雅之 令和6年4月	ササオ トモヒロ 笹 生 友広 令和7年4月	大学全体の組織変革及び 校務の都合による 令和7年4月1日(7)

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してくた

(例) 令和6年度に報告済の内容 → (6)

令和7年度に報告する内容 → (7)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、別ファイルにて提出してください。
・様式は、令和3年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和7年度までの5年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が6年を越え、様式に変更が必要な場合には、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別途ご連絡ください。
・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称(学位)	学位又は学科 の分野	設 置 時 の 計 画				学生募集の停 止について	備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
国際学部 国際学科 学士(国際学)	文学関係	4 年	50 人	2年次 0 人 3年次 5 人 4年次 0 人	100 人	-	

- (注) ・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の2))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区 分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の 学期区分につい て	収容定員 充 足 率	収容定員 充 足 率 (控除後)	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 - (-) [-]	人 - (-) [-]	人 - (-) [-]	人 - (-) [-]	人 - (-) [-]	人 - (-) [-]	人 - (-) [-]	人 - (-) [-]	50人 50 (-) [-]	人 - (-) [-]	50人 50 (-) [-]	人 - (-) [-]	-			
志願者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	101 (-) [-]	- (-) [-]	128 (-) [-]	- (-) [-]		1.13倍	一倍	
受験者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	95 (-) [-]	- (-) [-]	124 (-) [-]	- (-) [-]				
合格者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	81 (-) [-]	- (-) [-]	69 (-) [-]	- (-) [-]				
B 入学者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	53 (-) [-]	- (-) [-]	62 (-) [-]	- (-) [-]				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	-	-	1.06	-	1.24	-				

- (注) ・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
・()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。
該当がない年度には「-」を記入してください。
・転入学生は記入しないでください。
・[]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。
春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳(予定を含む)を記載してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和8年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
・「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	51 [1] (－)	－ [－] (－)	62 [1] (－)	－ [－] (－)	
2 年次			－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	51 [1] (－)	－ [－] (－)	
3 年次					－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)
4 年次							－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)
計			－ [－] (－)	－ [－] (－)			－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	51 [1] (－)	113 [2] (－)		

(注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ []内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
- また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和2年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
令和6年度	51 人	2 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	2 人	0 人	一身上の都合(2人)
令和7年度	113 人	0 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
			令和7年度	0 人	0 人	
合 計		2 人		2 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・修学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\text{\#VALUE!}} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\text{\#VALUE!}} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\text{\#VALUE!}} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\text{\#VALUE!}} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{2}{53} = \boxed{3.77} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{113} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<国際学部 国際学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
教 養 科 目 （ 桜 花 学 ）	現代社会と女性	1前		2							1	
	女性とジェンダー	1前		2							1	
	女性と家庭教育	1前		2							1	
	芸術の世界	1前		2							3	
	文学の世界	1前		2							1	
	心の探求	1前		2							1	
	生き方の探求	1前		2							1	
	生活と経済	1後		2							1	
	地域社会	1後		2							1	
	人間と歴史	1後		2							1	
	異文化理解	1後		2							1	
	日本の文化	1後		2		1						
	国際関係論	1後		2							1	
	グローバル社会と宗教	1後		2		1						
	環境の科学	2前		2							1	
	食と生命の科学	2前		2							2	
	生き物の社会	2前		2							1	
共 通 教 育 科 目	スポーツ健康論	1後		2							1	
	スポーツⅠ	2後		1							2	
	スポーツⅡ	2後		1							2	
	統計学	2後		2							1	
	社会調査法	2後		2							1	
	情報社会論	2後		2							1	
	コンピュータⅠ	1前		1							1	
	コンピュータⅡ	1後		1							1	
	NGO・NPO論	3前		2							1	
	現代社会と企業	3前		2							1	
	地域協力演習	3前		2		1						
	インターンシップ(国内)A	2・3・4 前・後		1		1						
	インターンシップ(国内)B	2・3・4 前・後		2		1						
	インターンシップ(海外)A	1・2・3・4 前・後		1		1						
	インターンシップ(海外)B	1後・2・ 3・4前・ 後		2		1						
	インターンシップ(海外)C	3・4前・ 後		3		1						
	インターンシップ(海外)D	1後・2・ 3・4前・ 後		4		1						
	基 礎 科 目	ボランティア(国内)	1後・2・ 3・4前・ 後		1		1					
		ボランティア(海外)	1後・2・ 3・4前・ 後		2		1					
		海外英語資格実習	2・3・4 前・後		2		1					
ポルトガル語と文化Ⅰ		1前		1							1	
ポルトガル語と文化Ⅱ		1後		1							1	
スペイン語と文化Ⅰ		1前		1							1	
スペイン語と文化Ⅱ		1後		1							1	
フランス語と文化Ⅰ		1前		1							1	
フランス語と文化Ⅱ		1後		1							1	
中国語と文化Ⅰ		1前		1		1						
中国語と文化Ⅱ		1後		1		1						
中国語と文化Ⅲ		2前		1		1						
中国語と文化Ⅳ		2後		1		1						
韓国語と文化Ⅰ		1前		1							2	
韓国語と文化Ⅱ		1後		1							2	
韓国語と文化Ⅲ		2前		1							1	
韓国語と文化Ⅳ		2後		1							1	
日本国憲法	2後		2							1		
海外研修A	2・3・4 前・後		2		1	1				1		
海外研修B	2・3・4 前・後		4		1	1				1		
基礎演習Ⅰ	1前		1		1	1						
基礎演習Ⅱ	1後		1		1	1						
エクステンション科目	1・2・3・4 前・後		6									
小計(56科目)	—	2	98	0	20	4	0	0	0	45		

【令和7年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
教 養 科 目 （ 桜 花 学 ）	ライフコース論	1前		2								1
	ジェンダー論	1前		2								1
	自分と家族	1前		2								1
	芸術の世界	1前		2								3
	ことばの世界	1前		2								1
	心の探求	1前		2								1
	生き方の探求	1前		2								1
	生活と経済	1後		2								1
	地域社会	1後		2								1
	人間と歴史	1後		2								1
	異文化理解	1後		2			1					
	日本の文化	1後		2		1						
	国際関係論	1後		2								1
	グローバル社会と宗教	1後		2		1						
	環境の科学	2前		2								1
	食と生命の科学	2前		2								2
	生き物の社会	2前		2								1
共 通 教 育 科 目	スポーツ健康論	1後		2								1
	スポーツⅠ	2後		1								2
	スポーツⅡ	2後		1								2
	統計学	2後		2								1
	社会調査法	2後		2								1
	情報社会論	2後		2								1
	コンピュータⅠ	1前		1		1						
	コンピュータⅡ	1後		1		1						
	NGO・NPO論	3前		2								1
	現代社会と企業	3前		2								1
	地域協力演習	3前		2		1						
	インターンシップ(国内)A	2・3・4 前・後		1		1						
	インターンシップ(国内)B	2・3・4 前・後		2		1						
	インターンシップ(海外)A	1・2・3・4 前・後		1		1						
	インターンシップ(海外)B	1後・2・ 3・4前・ 後		2		1						
	インターンシップ(海外)C	1後・2・ 3・4前・ 後		3		1						
	インターンシップ(海外)D	1後・2・ 3・4前・ 後		4		1						
	ボランティア(国内)	1後・2・ 3・4前・ 後		1		1						
	ボランティア(海外)	1後・2・ 3・4前・ 後		2		1						2
	海外英語資格実習	2・3・4 前・後		2		1						
	ポルトガル語と文化Ⅰ	1前		1								1
	ポルトガル語と文化Ⅱ	1後		1								1
	スペイン語と文化Ⅰ	1前		1								1
	スペイン語と文化Ⅱ	1後		1								1
	フランス語と文化Ⅰ	1前		1								1
	フランス語と文化Ⅱ	1後		1								1
	中国語と文化Ⅰ	1前		1		1						
	中国語と文化Ⅱ	1後		1		1						
	中国語と文化Ⅲ	2前		1		1						
	中国語と文化Ⅳ	2後		1		1						
	韓国語と文化Ⅰ	1前		1								2
	韓国語と文化Ⅱ	1後		1								2
韓国語と文化Ⅲ	2前		1								1	
韓国語と文化Ⅳ	2後		1								1	
日本国憲法	2後		2									
海外研修A	2・3・4 前・後		2		1	1					1	
海外研修B	2・3・4 前・後		4		1	1					1	
基礎演習Ⅰ	1前		1			1	1					
基礎演習Ⅱ	1後		1			1	1					
エクステンション科目	1・2・3・4 前・後			6								
小計(56科目)	—	2	96	0	22	5	0	0	0	0	44	

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門 教育科目	国際学基礎	Grammar for Communication I	1前	1			1	1				
		Grammar for Communication II	1後	1			1	1				
		Speaking I	1前		1		2					
		Speaking II	1後		1		2					
		Writing for Communication I	1前		1							1
		Writing for Communication II	1後		1							1
		Reading I	1前		1		1					1
		Reading II	1後		1		1					1
		English Phonetics I	1前	2				1				
		English Phonetics II	1後	2				1				
		English Presentation I	2前		1		1					1
		English Presentation II	2後		1		1					1
		Communicative English I	2前		1		1					1
		Communicative English II	2後		1		1					1
		英語資格講座 1A	1前					1				
		英語資格講座 1A	1後					1				
		英語資格講座 1B	1前		1		1					
		英語資格講座 1B	1後		1		1					
		英語資格講座 1C	1前		1							1
		英語資格講座 1C	1後		1							1
		観光英語A	1前		1			1				
		観光英語B	1後		1			1				
		日本語表現 I	1前	1								1
		日本語表現 II	1後	1								1
		日本語表現Ⅲ	2前	1								1
		日本語表現Ⅳ	2後	1								1
		基礎ゼミナール I	2前	1			1	1				
		基礎ゼミナール II	2後	1			1	1				
		サステイナブルな社会	1前			2						1
		日本のポピュラーカルチャー	1前			2						1
		アニメーション論	1後			2						1
		時事ニュース(国内) I	2前				2	1				
		時事ニュース(外国) II	2後			2	2	1				
		アメリカ文学入門	2前		2		1					
イギリス文学入門	2後		2			1						
楽しい古典芸能	2後		2							1		
キャリアデザイン I	3前		2		1							
キャリアデザイン II	3後		2		1							
海外語学実習 I (英語圏)	1後		4		2							
海外語学実習 I (韓国語)	1後		4		1							
海外語学実習 I(中国語圏)	1後		4		1							
海外語学実習 II (英語圏)	2後・3・4 前・後		4		1	1						
海外語学実習 II (韓国語)	2後・3・4 前・後		4							1		
海外語学実習 II (中国語圏)	2後・3・4 前・後		4		1							
小計 (44科目)	—	12	62	0	29	14	0	0	0	19		

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門 教育科目	国際学基礎	Grammar for Communication I	1前	1			1	1				1
		Grammar for Communication II	1後	1			1	1				1
		Speaking I	1前		1		2					1
		Speaking II	1後		1		2					1
		Writing for Communication I	1前		1							3
		Writing for Communication II	1後		1							3
		Reading I	1前		1		1					2
		Reading II	1後		1		1					2
		English Phonetics I	1前	2				1				2
		English Phonetics II	1後	2				1				2
		English Presentation I	2前		1							1
		English Presentation II	2後		1		1					1
		Communicative English I	2前		1		1					1
		Communicative English II	2後		1		1					1
		英語資格講座 IA	1前		1			1				1
		英語資格講座 IIA	1後		1			1				1
		英語資格講座 IB	1前		1		1					
		英語資格講座 IIB	1後		1		1					
		英語資格講座 IC	1前		1							1
		英語資格講座 IIC	1後		1							1
		観光英語A	1前		1			1				
		観光英語B	1後		1			1				
		日本語表現 I	1前	1								3
		日本語表現 II	1後	1								3
		日本語表現Ⅲ	2前	1								2
		日本語表現Ⅳ	2後	1								2
		基礎ゼミナール I	2前	1			1	1				
		基礎ゼミナール II	2後	1			1	1				
		サステイナブルな社会	1前		2							1
		日本のポピュラーカルチャー	1前		2							1
		アニメーション論	1後		2							1
		時事ニュース(国内) I	2前		2		2	1				
		時事ニュース(外国) II	2後		2		2	1				
		アメリカ文学入門	2前		2		1					
		イギリス文学入門	2後		2			1				
		楽しい古典芸能	2後		2							1
		キャリアデザイン I	3前		2		1					
		キャリアデザイン II	3後		2		1					
		海外語学実習 I (英語圏)	1後		4		2					
		海外語学実習 I (韓国語)	1後		4		1					
		海外語学実習 I(中国語圏)	1後		4		1					
		海外語学実習 II (英語圏)	2後・3・4 前・後		4		1	1				
		海外語学実習 II (韓国語)	2後・3・4 前・後		4							1
		海外語学実習 II (中国語圏)	2後・3・4 前・後		4		1					
		小計(44科目)	—	12	62	0	29	14	0	0	0	41

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
			修	修	由	授	授	師	数	手	
国際・情報専攻	情報リテラシーⅠ	2前	2							1	
	情報リテラシーⅡ	2後	2							1	
	ITスキル応用Ⅰ	3前	1							1	
	ITスキル応用Ⅱ	3後	1							1	
	データサイエンス基礎	3前	2							1	
	コンテンツ制作	3後	2							1	
	中国語検定対策	2前	2		1						
	中国語リスニング&スピーキング	2後	2		1						
	中国語リーディング&ライティング	3前	2		1						
	日中交流史	3後	2		1						
	ビジネス環境とマーケティング	2後	2							1	
	学校文化と英語学習	2前	2		1						
	Advanced WritingⅠ	2前	2							1	
	Advanced WritingⅡ	2後	2							1	
	Business English	2前	2		1						
	Communicative EnglishⅢ	3前	1		1						
	Communicative EnglishⅣ	3後	1		1						
	英語翻訳・通訳	3前	2		1					1	
	Speech & Presentation	3後	1							1	
	British Studies	3前	2			1					
	American Studies	3前	2		1						
	Theory of English Structure	3前	2							1	
	American Literature	3後	2		1						
	British Literature	3後	2			1					
	International Relations	3後	2		1						
	Study Abroad Preparation A	2前	1		1						
	Study Abroad Preparation B	2後	1		1						
日本語教育専攻	多文化社会論	1前	2							1	
	日本語概論	1後	2							1	
	日本語教育概論Ⅰ	2前	2							1	
	日本語教育概論Ⅱ	2後	2							1	
	日英語比較Ⅰ	2前	2							1	
	日英語比較Ⅱ	2後	2							1	
	社会と言語	3前	2							1	
	日本語教育法Ⅰ	3前	2							1	
	日本語教育法Ⅱ	3後	2							1	
	言語学	3前	2							1	
	応用言語学	3後	2							1	
	日本語教育演習Ⅰ	4前	2							1	
	日本語教育演習Ⅱ	4後	2							1	
	学校教育インターンシップ	2・3・4 前・後	2		1						
	国内日本語教育インターンシップ	4前・後	2		1						
韓国専攻	海外日本語教育インターンシップA	4前・後	2		1						
	海外日本語教育インターンシップB	4前・後	4		1						
	日本語教育ボランティアA	2・3・4 前・後	2		1						
	日本語教育ボランティアB	2・3・4 前・後	4		1						
	韓国語表現文法	1後	2							1	
	韓国語リスニング&スピーキング	2前	2		1					1	
	韓国語リーディング&ライティング	2後	2		1					1	
	韓国語コミュニケーション	2前	2		1						
	韓国語プレゼンテーション	2後	2		1						
	韓国語映像翻訳	3前	2							1	
観光専攻	ビジネス韓国語	3後	2							1	
	韓国事情	1前	2							1	
	韓国サブカルチャー	1後	2							1	
	韓国現代文学	2前	2							1	
	日韓対照言語学	2後	2		1						
	韓国の歴史	3前	2							1	
	韓国伝統文化と思想	3後	2							1	
	日韓文化比較	2前	2							1	
	韓国自由研究	2後	2		1						
	韓国インターンシップ	2・3・4 前・後	2							1	
	韓国留学準備講座A	2前	2		1						
	韓国留学準備講座B	2後	2		1						
	検定韓国語初級A	1前	1							1	
	検定韓国語中級A	1前	1							1	
	検定韓国語上級A	1前	1							1	
	検定韓国語初級B	1後	1							1	
	検定韓国語中級B	1後	1							1	
	検定韓国語上級B	1後	1							1	
観光専攻	観光学概論	1後	2		1						
	観光と文化	2後	2		1						
	観光ホスピタリティ	2前	2		1						
	観光政策論	3後	2							1	
	観光インターンシップ	2・3・4 前・後	2		1						
	観光と地理	1前	2		1					1	
	エアライン講座	2前	2							1	
	旅行産業論	2後	2		1						
	宿泊産業論	3前	2		1						
	交通産業論	3前	2							1	
	観光マーケティング	3後	2		1						
	観光とソーシャルメディア	3後	2							1	
	祭と文化	2前	2		1						
	観光まちづくり論	3前	2		1						
	地域ブランディング論	3後	2		1						
	観光と社会	2後	2		1						
	地域フィールドワーク	2前	2		1						
小計(87科目)			—	0	165	0	41	2	0	0	47

	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
			修	択	由	授	授	師	数	手		
国際・ 情報 専攻	情報リテラシーⅠ	2前	2									
	情報リテラシーⅡ	2後	2									1
	ITスキル応用Ⅰ	3前	1									1
	ITスキル応用Ⅱ	3後	1									1
	データサイエンス基礎	3前	2									1
	コンテンツ制作	3後	2									1
	中国語検定対策	2前	2		1							
	中国語リスニング＆スピーキング	2後	2		1							
	中国語リーディング＆ライティング	3前	2		1							
	日中交流史	3後	2		1							
	ビジネス環境とマーケティング	2後	2									1
	学校文化と英語学習	2前	2		1							
	Advanced WritingⅠ	2前	2									1
	Advanced WritingⅡ	2後	2									1
	Business English	2前	2		1							
	Communicative EnglishⅢ	3前	1		1							
	Communicative EnglishⅣ	3後	1		1							
	英語翻訳・通訳	3前	2		1							1
	Speech＆Presentation	3後	1									1
	British Studies	3前	2				1					
	American Studies	3前	2		1							
	Theory of English Structure	3前	2									1
	American Literature	3後	2		1							
	British Literature	3後	2				1					
	International Relations	3後	2		1							
	Study Abroad Preparation A	2前	1		1							
	Study Abroad Preparation B	2後	1		1							
日 本 語 教 育 専 攻	多文化社会論	1前	2									1
	日本語概論	1後	2									
	日本語教育概論Ⅰ	2前	2									1
	日本語教育概論Ⅱ	2後	2									1
	日英語比較Ⅰ	2前	2									1
	日英語比較Ⅱ	2後	2									1
	社会と言語	3前	2									1
	日本語教育法Ⅰ	3前	2									1
	日本語教育法Ⅱ	3後	2									1
	言語学	3前	2									1
	応用言語学	3後	2									1
	日本語教育演習Ⅰ	4前	2									1
	日本語教育演習Ⅱ	4後	2									1
	学校教育インターンシップ	2・3・4 前・後	2		1							
	国内日本語教育インターンシップ	4前・後	2		1							
	海外日本語教育インターンシップA	4前・後	2		1							
	海外日本語教育インターンシップB	4前・後	4		1							
日本語教育ボランティアA	2・3・4 前・後	2		1								
日本語教育ボランティアB	2・3・4 前・後	4		1								
韓 国 専 攻	韓国語表現文法	1後	2									2
	韓国語リスニング＆スピーキング	2前	2									1
	韓国語リーディング＆ライティング	2後	2									1
	韓国語コミュニケーション	2前	2		1							
	韓国語プレゼンテーション	2後	2		1							
	韓国語映像翻訳	3後	2									1
	ビジネス韓国語	3後	2									1
	韓国事情	1後	2									1
	韓国サブカルチャー	1前	2									1
	韓国現代文学	2前	2									1
	日韓対照言語学	2後	2		1							
	韓国の歴史	3前	2									1
	韓国伝統文化と思想	3後	2									1
	日韓文化比較	2前	2									1
	韓国自由研究	2後	2		1							
	韓国インターンシップ	2・3・4 前・後	2									1
	韓国留学準備講座A	2前	2		1							
	韓国留学準備講座B	2後	2		1							
	検定韓国語初級A	1前	1									1
	検定韓国語中級A	1前	1									1
検定韓国語上級A	1前	1									1	
検定韓国語初級B	1後	1									1	
検定韓国語中級B	1後	1									1	
検定韓国語上級B	1後	1									1	
観 光 専 攻	観光学概論	1後	2		1							
	観光と文化	2後	2		1							
	観光ホスピタリティ	2前	2		1							
	観光政策論	3後	2									1
	観光インターンシップ	2・3・4 前・後	2		1							
	観光と地理	1前	2		1							
	エアライン講座	2後	2									1
	旅行産業論	2後	2		1							
	宿泊産業論	3前	2		1							
	交通産業論	3前	2									1
	観光マーケティング	3後	2		1							
	観光とソーシャルメディア	3後	2									1
	祭と文化	2前	2		1							
	観光まちづくり論	3前	2		1							
	地域ブランディング論	3後	2		1							
	観光と社会	2後	2		1							
	地域フィールドワーク	2前	2		1							
小計(87科目)	—	0	165	0	39	2	0	0	0	0	40	

専門教育科目	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教員	准教員	講師	助教	助手	
			修	択	由	授	授	師	数	手	
ゼミ・卒業研究	専門ゼミナールⅠ	3前	1			8	2				
	専門ゼミナールⅡ	3後	1			8	2				
	専門ゼミナールⅢ	4前	1			8	2				
	専門ゼミナールⅣ	4後	1			8	2				
	卒業研究	4後	4			8	2				
	小計(5科目)	—	8	0	0	40	10	0	0	0	0
自由科目	教職入門	1後			2	1					
	教育原理	1後			2						1
	学習心理学	1後			2						1
	道德教育の指導法	2前			2						1
	生徒・進路指導論	2後			2						1
	特別支援基礎論	3前			1						1
	教育方法・技術論	3前			2						1
	教育相談	3前			2						1
	教育行政・制度論	3後			2						1
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	3後			2						1
	教育課程論	4後			2						1
	英語科教育法Ⅰ	2前			2	1					
	英語科教育法Ⅱ	2後			2	1					
	英語科教育法Ⅲ	3前			2		1				
	英語科教育法Ⅳ	3後			2		1				
	教職実践演習Ⅰ(中・高)	4前			1	1					
	教職実践演習Ⅱ(中・高)	4後			1		1				
	教育実習指導	4前			1	1					
	教育実習Ⅰ	4前			4	1					
	教育実習Ⅱ	4前			2	1					
	小計(20科目)	—	0	0	38	7	3	0	0	0	10
合計(212科目)			—	22	325	38	137	33	0	0	121
卒業要件及び履修方法											
必修科目22単位、専門教育科目(国際学基礎)から(必修科目を含め)40単位以上、専門教育科目のうち、国際・情報専攻、日本語教育専攻、韓国専攻、観光専攻のいずれかより主専攻(メジャー専攻)、副専攻(マイナー専攻)を選択し、主専攻(メジャー専攻)から30単位以上、副専攻(マイナー専攻)から20単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))											

専門教育科目	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教員	准教員	講師	助教	助手	
			修	択	由	授	授	師	数	手	
ゼミ・卒業研究	専門ゼミナールⅠ	3前	1			8	2				
	専門ゼミナールⅡ	3後	1			8	2				
	専門ゼミナールⅢ	4前	1			8	2				
	専門ゼミナールⅣ	4後	1			8	2				
	卒業研究	4後	4			8	2				
	小計(5科目)	—	8	0	0	40	10	0	0	0	0
自由科目	教職入門	1後			2	1					
	教育原理	1後			2						1
	学習心理学	1後			2						1
	道德教育の指導法	2前			2						1
	生徒・進路指導論	2後			2						1
	特別支援基礎論	3前			1						1
	教育方法・技術論(ICT活用含む)	3前			2						1
	教育相談	3前			2						1
	教育行政・制度論	3後			2						1
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	3後			2						1
	教育課程論	4後			2						1
	英語科教育法Ⅰ	2前			2	1					
	英語科教育法Ⅱ	2後			2	1					
	英語科教育法Ⅲ	3前			2		1				
	英語科教育法Ⅳ	3後			2		1				
	教職実践演習Ⅰ(中・高)	4前			1	1					
	教職実践演習Ⅱ(中・高)	4後			1		1				
	教育実習指導	4前			1	1					
	教育実習Ⅰ	4前			4	1					
	教育実習Ⅱ	4前			2	1					
	小計(20科目)	—	0	0	38	7	3	0	0	0	10
合計(212科目)			—	22	323	38	137	34	0	0	143
卒業要件及び履修方法											
必修科目22単位、専門教育科目(国際学基礎)から(必修科目を含め)40単位以上、専門教育科目のうち、国際・情報専攻、日本語教育専攻、韓国専攻、観光専攻のいずれかより主専攻(メジャー専攻)、副専攻(マイナー専攻)を選択し、主専攻(メジャー専攻)から30単位以上、副専攻(マイナー専攻)から20単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))											

【令和6年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必	選	自	教	准	講	助	助		
			修	択	由	授	教	師	教	手		
教養科目 （桜花学）	ライフコース論	1前		2								1
	ジェンダー論	1前		2								1
	自分と家族	1前		2								1
	芸術の世界	1前		2								3
	文学の世界	1前		2								1
	心の探求	1前		2								1
	生き方の探求	1前		2								1
	生活と経済	1後		2								1
	地域社会	1後		2								1
	人間と歴史	1後		2								1
	異文化理解	1後		2								1
	日本の文化	1後		2		1						
	国際関係論	1後		2								1
	グローバル社会と宗教	1後		2		1						
	環境の科学	2前		2								1
	食と生命の科学	2前		2								2
	生き物の社会	2前		2								1
共通教育科目	スポーツ健康論	1後		2								1
	スポーツⅠ	2後		1								2
	スポーツⅡ	2後		1								2
	統計学	2後		2								1
	社会調査法	2後		2								1
	情報社会論	2後		2								1
	コンピュータⅠ	1前		1								1
	コンピュータⅡ	1後		1								1
	NGO・NPO論	3前		2								1
	現代社会と企業	3前		2								1
	地域協力演習	3前		2		1						
	インターンシップ(国内)A	2・3・4 前・後		1		1						
	インターンシップ(国内)B	2・3・4 前・後		2		1						
	インターンシップ(海外)A	1・2・3・4 前・後		1		1						
	インターンシップ(海外)B	1後・2・ 3・4前・ 後		2		1						
	インターンシップ(海外)C	1後・2・ 3・4前・ 後		3		1						
	インターンシップ(海外)D	1後・2・ 3・4前・ 後		4		1						
	ボランティア(国内)	3・4前・ 1後・2・ 3・4前・ 後		1		1						
	ボランティア(海外)	3・4前・ 1後・2・ 3・4前・ 後		2		1						2
	海外英語資格実習	2・3・4 前・後		2		1						
	ポルトガル語と文化Ⅰ	1前		1								1
	ポルトガル語と文化Ⅱ	1後		1								1
	スペイン語と文化Ⅰ	1前		1								1
	スペイン語と文化Ⅱ	1後		1								1
	フランス語と文化Ⅰ	1前		1								1
	フランス語と文化Ⅱ	1後		1								1
	中国語と文化Ⅰ	1前		1		1						
	中国語と文化Ⅱ	1後		1		1						
	中国語と文化Ⅲ	2前		1		1						
	中国語と文化Ⅳ	2後		1		1						
	韓国語と文化Ⅰ	1前										2
	韓国語と文化Ⅱ	1後										2
	韓国語と文化Ⅲ	2前		1								1
	韓国語と文化Ⅳ	2後		1								1
	日本国憲法	2後		2								
	海外研修A	2・3・4 前・後		2		1	1					1
海外研修B	2・3・4 前・後		4		1	1					1	
基礎演習Ⅰ	1前	1			1	1						
基礎演習Ⅱ	1後	1			1	1						
エクステンション科目	1・2・3・4 前・後		6									
小計(56科目)	—	2	96	0	20	4	0	0	0		47	

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	目 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教 員	助 手	
専門 教育 科目	Grammar for Communication I	1前	1			1					1
	Grammar for Communication II	1後	1			1					1
	Speaking I	1前		1		2					1
	Speaking II	1後		1		2					1
	Writing for Communication I	1前		1							3
	Writing for Communication II	1後		1							3
	Reading I	1前		1	1						2
	Reading II	1後		1	1						2
	English Phonetics I	1前	2			1					1
	English Phonetics II	1後	2			1					1
	English Presentation I	2前		1	1						1
	English Presentation II	2後		1	1						1
	Communicative English I	2前		1	1						1
	Communicative English II	2後		1	1						1
	英語資格講座 1A	1前		1		1					
	英語資格講座 1IA	1後		1		1					
	英語資格講座 1B	1前		1	1						
	英語資格講座 1IB	1後		1	1						
	英語資格講座 1C	1前		1							1
	英語資格講座 1IC	1後		1							1
	観光英語A	1前		1		1					
	観光英語B	1後		1		1					
	日本語表現 I	1前	1								2
	日本語表現 II	1後	1								2
	日本語表現III	2前	1								1
	日本語表現IV	2後	1								1
	基礎ゼミナール I	2前	1			1	1				
	基礎ゼミナール II	2後	1			1	1				
	サステナブルな社会(未開講)	1前		2							1
	日本のポピュラーカルチャー	1前		2							1
	アニメーション論	1後		2							1
	時事ニュース(国内) I	2前		2		2	1				
	時事ニュース(外国) II	2後		2		2	1				
	アメリカ文学入門	2前		2		1					
	イギリス文学入門	2後		2		1					
	楽しい古典芸能	2後		2							1
	キャリアデザイン I	3前		2		1					
	キャリアデザイン II	3後		2		1					
	海外語学実習 I (英語圏)	1後		4		2					
	海外語学実習 I (韓国語)	1後		4		1					
	海外語学実習 I (中国語圏)	1後		4		1					
	海外語学実習 II (英語圏)	2後・3・4 前・後		4		1	1				
	海外語学実習 II (韓国語)	2後・3・4 前・後		4							1
	海外語学実習 II (中国語圏)	2後・3・4 前・後		4		1					
	小計(44科目)	—	12	62	0	27	14	0	0	0	33

	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
			修 得	得	得	得	得	得	得	得		
国際・ 情報専攻	情報リテラシーⅠ	2前		2								1
	情報リテラシーⅡ	2後		2								1
	ITスキル応用Ⅰ	3前		1								1
	ITスキル応用Ⅱ	3後		1								1
	データサイエンス基礎	3前		2								1
	コンテンツ制作	3後		2								1
	中国語検定対策	2前		2		1						
	中国語リスニング&スピーキング	2後		2		1						
	中国語リーディング&ライティング	3前		2		1						
	日中交流史	3後		2		1						
	ビジネス環境とマーケティング	2後		2								1
	学校文化と英語学習	2前		2		1						
	Advanced WritingⅠ	2前		2								1
	Advanced WritingⅡ	2後		2								1
	Business English	2前		2		1						
	Communicative EnglishⅢ	3前		1		1						
	Communicative EnglishⅣ	3後		1		1						
	英語翻訳・通訳	3前		2		1						1
	Speech & Presentation	3後		1								1
	British Studies	3前		2			1					
	American Studies	3前		2		1						
	Theory of English Structure	3前		2								1
	American Literature	3後		2		1						
	British Literature	3後		2			1					
	International Relations	3後		2		1						
	Study Abroad Preparation A	2前		1		1						
	Study Abroad Preparation B	2後		1		1						
専門 教育科目	多文化社会論	1前		2								1
	日本語概論	1後		2								1
	日本語教育概論Ⅰ	2前		2								1
	日本語教育概論Ⅱ	2後		2								1
	日英語比較Ⅰ	2前		2								1
	日英語比較Ⅱ	2後		2								1
	社会と言語	3前		2								1
	日本語教育法Ⅰ	3前		2								1
	日本語教育法Ⅱ	3後		2								1
	言語学	3前		2								1
	応用言語学	3後		2								1
	日本語教育演習Ⅰ	4前		2								1
	日本語教育演習Ⅱ	4後		2								1
	学校教育インターンシップ	2・3・4 前・後		2		1						
	国内日本語教育インターンシップ	4前・後		2		1						
	海外日本語教育インターンシップA	4前・後		2		1						
	海外日本語教育インターンシップB	4前・後		4		1						
	日本語教育ボランティアA	2・3・4 前・後		2		1						
	日本語教育ボランティアB	2・3・4 前・後		4		1						
韓国 専攻	韓国語表現文法	1後		2								2
	韓国語リスニング&スピーキング	2前		2		1						1
	韓国語リーディング&ライティング	2後		2		1						1
	韓国語コミュニケーション	2前		2		1						
	韓国語プレゼンテーション	2後		2		1						
	韓国語映像翻訳	3前		2								1
	ビジネス韓国語	3後		2								1
	韓国事情	1後		2								1
	韓国サブカルチャー	1前		2								1
	韓国現代文学	2前		2								1
	日韓対照言語学	2後		2		1						
	韓国の歴史	3前		2								1
	韓国伝統文化と思想	3後		2								1
	日韓文化比較	2前		2								1
	韓国自由研究	2後		2		1						
	韓国インターンシップ	2・3・4 前・後		2								1
	韓国留学準備講座A	2前		2		1						
	韓国留学準備講座B	2後		2		1						
	検定韓国語初級A	1前		1		1						1
	検定韓国語中級A	1前		1								1
検定韓国語上級A	1前		1								1	
検定韓国語初級B	1後		1								1	
検定韓国語中級B	1後		1								1	
検定韓国語上級B	1後		1								1	
観光 専攻	観光学概論	1後		2		1						
	観光と文化	2後		2		1						
	観光ホスピタリティ	2前		2		1						
	観光政策論	3後		2								1
	観光インターンシップ	2・3・4 前・後		2		1						
	観光と地理	1前		2		1						
	エアライン講座	2前		2								1
	旅行産業論	2後		2		1						
	宿泊産業論	3前		2		1						
	交通産業論	3前		2								1
	観光マーケティング	3後		2		1						
	観光とソーシャルメディア	3後		2								1
	祭と文化	2前		2		1						
	観光まちづくり論	3前		2		1						
	地域ブランディング論	3後		2		1						
	観光と社会	2後		2		1						
地域フィールドワーク	2前		2		1							
小計(87科目)	—	0	165	0	42	2	0	0	0	0	48	

専門教育科目	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
ゼミ・卒業研究	専門ゼミナールⅠ	3前	1			8	2				
	専門ゼミナールⅡ	3後	1			8	2				
	専門ゼミナールⅢ	4前	1			8	2				
	専門ゼミナールⅣ	4後	1			8	2				
	卒業研究	4後	4			8	2				
	小計(5科目)	—	8	0	0	40	10	0	0	0	0
自由科目	教職入門	1後			2	1					
	教育原理	1後			2						1
	学習心理学	1後			2						1
	道徳教育の指導法	2前			2						1
	生徒・進路指導論	2後			2						1
	特別支援基礎論	3前			1						1
	教育方法・技術論(IGT活用含む)	3前			2						1
	教育相談	3前			2						1
	教育行政・制度論	3後			2						1
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	3後			2						1
	教育課程論	4後			2						1
	英語科教育法Ⅰ	2前			2	1					
	英語科教育法Ⅱ	2後			2	1					
	英語科教育法Ⅲ	3前			2		1				
	英語科教育法Ⅳ	3後			2		1				
	教職実践演習Ⅰ(中・高)	4前			1	1					
	教職実践演習Ⅱ(中・高)	4後			1		1				
	教育実習指導	4前			1	1					
	教育実習Ⅰ	4前			4	1					
	教育実習Ⅱ	4前			2	1					
	小計(20科目)	—	0	0	38	7	3	0	0	0	10
合計(212科目)		—	22	323	38	136	33	0	0	0	138
卒業要件及び履修方法											
必修科目22単位、専門教育科目(国際学基礎)から(必修科目を含め)40単位以上、専門教育科目のうち、国際・情報専攻、日本語教育専攻、韓国専攻、観光専攻のいずれかより主専攻(メジャー専攻)、副専攻(マイナー専攻)を選択し、主専攻(メジャー専攻)から30単位以上、副専攻(マイナー専攻)から20単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))											

(注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字**としてください。
- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「※」、「**臨地実務実習**」による授業科目には「【臨】」、「**連携実務実習**」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
- ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。
その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。
新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
(例:記載順)【認可時又は届出時】→【令和7年度(新)】→【令和6年度(新)】→【令和5年度(新)】→【令和4年度(旧)】→【令和7年度(旧)】→【令和6年度(旧)】

(1) ①授業科目表に関する変更内容

【令和6年度】

- ・大学の英学化(令和6年度入学生より)に伴い、「現代社会と女性」を「ライフコース論」に、「女性とジェンダー」を「ジェンダー論」に、「女性と家庭教育」を「自分と家族」に、科目名変更。
- ・校務の促進を鑑み、「Grammar for CommunicationⅠ」及び「Grammar for CommunicationⅡ」の専任教員の配置を「教授1、准教授1」から「准教授1、兼任・兼担1」に変更。
- ・入学者の学力層を鑑み、「SpeakingⅠ」及び「SpeakingⅡ」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授2、兼任・兼担1」に変更。
- ・入学者の学力層を鑑み、「Writing for CommunicationⅠ」及び「Writing for CommunicationⅡ」の教員の配置を「兼任・兼担1」から「兼任・兼担3」に変更。
- ・入学者の学力層を鑑み、「ReadingⅠ」及び「ReadingⅡ」の専任教員等の配置を「教授1、兼任・兼担1」から「教授1、兼任・兼担2」に変更。
- ・入学者の学力層を鑑み、「English PhoneticsⅠ」及び「English PhoneticsⅡ」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授1、兼任・兼担1」に変更。
- ・入学者の学力層を鑑み、「日本語表現Ⅰ」及び「日本語表現Ⅱ」の教員の配置を「兼任・兼担1」から「兼任・兼担2」に変更。
- ・入学者の学力層及び履修者数を鑑み、「韓国語表現文法」の教員の配置を「兼任・兼担1」から「兼任・兼担2」に変更。
- ・授業担当者の事情により、「韓国事情」の配当時期を1年前期から1年後期に変更。なお、履修系統に支障はない。
- ・授業担当者の事情により、「韓国サブカルチャー」の配当時期を1年後期から1年前期に変更。なお、履修系統に支障はない。
- ・入学者の学力層及び履修者数を鑑み、「検定韓国語初級A」の教員の配置を「兼任・兼担1」から「教授1、兼任・兼担1」に変更。
- ・教育職員免許法施行規則の改正に伴い、「教育方法・技術論」を「教育方法・技術論(IGT活用含む)」に科目名変更。

【令和7年度】

- ・授業内容との相当性を鑑み、「文学の世界」を「ことばの世界」に科目名変更。
- ・授業担当者の事情により、「異文化理解」の教員の配置を「兼任・兼担1」から「准教授1」に変更。
- ・専任教員を1名増員(教授)し、「コンピュータⅠ」及び「コンピュータⅡ」の教員の配置を「兼任・兼担1」から「教授1」に変更。
- ・入学者の学力層及び履修者数を鑑み、「Grammar for CommunicationⅠ」及び「Grammar for CommunicationⅡ」の教員の配置を「教授1、准教授1」から「教授1、兼任・兼担1」に変更。
- ・入学者の学力層及び履修者数を鑑み、「English PhoneticsⅠ」及び「English PhoneticsⅡ」の教員の配置を「准教授1、兼任・兼担1」から「准教授1、兼任・兼担2」に変更。
- ・入学者の学力層及び履修者数を鑑み、「英語資格講座ⅠA」及び「英語資格講座ⅡA」の教員の配置を「准教授1」から「准教授1、兼任・兼担1」に変更。
- ・入学者の学力層及び履修者数を鑑み、「日本語表現Ⅰ」及び「日本語表現Ⅱ」の教員の配置を「兼任・兼担2」から「兼任・兼担3」に変更。
- ・入学者の学力層及び履修者数を鑑み、「日本語表現Ⅲ」及び「日本語表現Ⅳ」の教員の配置を「兼任・兼担1」から「兼任・兼担2」に変更。
- ・授業担当者の事情により、「韓国語映像翻訳」の配当時期を3年前期から3年後期に変更。なお、履修系統に支障はない。
- ・授業担当者の事情により、「エアライン講座」の配当時期を2年前期から2年後期に変更。なお、履修系統に支障はない。

(注)・2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、

授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし」と記入してください。

- ・変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
- ・不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
- ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（A）	必修	選択	自由	計	
17 科目	175 科目	20 科目	212 科目	17 科目	175 科目	20 科目	212 科目	
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注)・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1 科目減の場合：△1）
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。

なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。

なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
- ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{212} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第 3 位を切り捨て、小数点以下第 2 位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	名古屋短期大学 (必要面積8,000㎡以上)と共用 6号館北側駐車場の過 少計上に気づき修正 (6) 新規事業用地の設置に より修正(7)
	校 舎 敷 地	㎡	39,340.27 37,344.27㎡	㎡	39,340.27 37,344.27㎡	
	運動場用地	㎡	16,709.88㎡	㎡	16,709.88㎡	
	小 計	㎡	56,020.15 54,054.15㎡	㎡	56,020.15 54,054.15㎡	
	そ の 他	㎡	19,692.94 ~~21,658.94~~ 17,205.44㎡	㎡	19,692.94 ~~21,658.94~~ 17,205.44㎡	
	合 計	㎡	75,713.09 71,259.59㎡	㎡	75,713.09 71,259.59㎡	
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	名古屋短期大学 (必要面積5,650㎡以上)と共用 8号館建築図面と 登記時の誤差により 修正(6)
		5,159.98㎡ (5,159.98㎡)	14,302.97 14,477.45㎡ ~~(14,302.97)~~ (14,477.45㎡)	3,406.96㎡ (3,406.96㎡)	22,869.91 23,044.39㎡ ~~(22,869.91)~~ (23,044.39㎡)	
(3) 教 室 等		講 義 室 54室	演 習 室 73室	実験実習室 4室	情報処理学習施設 3室 (補助職員0人)	語学学習施設 1室 (補助職員0人)
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 国際学部 国際学科		室 数 11 室		
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点
	国際学部 国際学科	243,300 [28,150] (241,816 [27,956] 239,506 -(27,936))	269 [33] (262 [28] 264 [29])	12 [12] (12 [12] 8 [7])	8,600 (8,480 8404)	0 (0)
	計	243,300 [28,150] (241,816 [27,956] 239,506 -(27,936))	269 [33] (262 [28] 264 [29])	12 [12] (12 [12] 8 [7])	8,600 (8,480 8404)	0 (0)
(6) 図 書 館		面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数	大学全体	
		2194.52㎡	320	225,000		
(7) 体 育 館		面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体
		2,237.6㎡	テ ニ ス コ ー ト	ゴ ル フ 練 習 場		
(8) 経費の見 積り及び 維持方法 の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度
	教員1人当り研究費等	450千円	450千円	図書購入費	500千円	500千円
	共同研究費等	3,500千円	3,500千円	設備購入費	500千円	500千円
	学生1人当 り 納付金	第1年次 1,411千円	第2年次 1,176千円	第3年次 1,176千円	第4年次 1,176千円	第5年次 —
	学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等				
	第6年次					

(注)・設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。

(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA C対象学部等の数値を記入してください。)

・運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。

・「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。

・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

・校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

・国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称						桜花学園大学					収容定員充足率0.7倍以下の学科数		1	収容定員充足率1.15倍以上の学科数		0
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	定員変更 年度 (AC期間 の学科の み)	開設 年度	所在地	備 考					
国際学部	4	50	年次 人 3年次 5	210	-	1.13	-	-	令和6	-	令和6年度入学生より学生募集停止					
国際学科	4	50	5	210	学士 (国際学)	1.13	-	-	令和6	愛知県豊明市栄町武待48番地						
学芸学部	4	-	-	-	-	-	-	-	平成21	-						
英語学科	4	-	-	-	学士 (英語)	-	-	-	平成21	愛知県豊明市栄町武待48番地						
教育保育学部	4	175	5	710	-	0.82	-	-	平成14	-						
教育保育学科	4	130	2	524	学士 (教育・保育 学)	0.92	-	-	平成14	愛知県豊明市栄町武待48番地						
国際教養こども学科	4	45	3	186	学士 (保育学)	0.53	-	-	平成30	同上						
大学全体	4	225	3年次 10	920	-	-	-	-	-	-						

(注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。
なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。
・学部・学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとに、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
・本年度 A C の対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引」（令和8年度開設用）IV.33収容定員の充足状況をご確認ください。
・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
また、0.7倍以下又は1.15倍以上の**学科**については、**必ず太字にしてください**。当該設定は、**学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません**。
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。
詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教員組織の状況

<国際学部 国際学科>

(1) ー① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和6年度】

【令和7年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	都 恩珍 (54) <令和6年4月> 修士 (言語学)	海外語学実習Ⅰ (韓国語) 国内日本語教育インターンシップ 海外日本語教育インターンシップA 海外日本語教育インターンシップB 日本語教育ボランティアA 日本語教育ボランティアB 韓国語コミュニケーション 韓国語プレゼンテーション 日韓対照言語学 韓国自由研究 韓国留学準備講座A 韓国留学準備講座B 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究
		石渡 雅之 (51) <令和6年4月> 修士 (教育学)	海外英語資格実習 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 学校文化と英語学習 学校教育インターンシップ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究 教職入門 英語科教育法Ⅰ 英語科教育法Ⅱ 教職実践演習Ⅰ (中・高) 教育実習指導 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ
		根尾 文彦 (68) <令和6年4月> 学士 (経営学)	地域協力演習 時事ニュース (国内)Ⅰ キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ 観光と文化 観光インターンシップ 観光と地理 観光まちづくり論 地域フィールドワーク 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	都 恩珍 (54) <令和6年4月> 修士 (言語学)	海外語学実習Ⅰ (韓国語) 国内日本語教育インターンシップ 海外日本語教育インターンシップA 海外日本語教育インターンシップB 日本語教育ボランティアA 日本語教育ボランティアB 韓国語コミュニケーション 韓国語プレゼンテーション 日韓対照言語学 韓国自由研究 韓国留学準備講座A 韓国留学準備講座B 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究 検定韓国語初級A
		石渡 雅之 (51) <令和6年4月> 修士 (教育学)	海外英語資格実習 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 学校文化と英語学習 学校教育インターンシップ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究 教職入門 英語科教育法Ⅰ 英語科教育法Ⅱ 教職実践演習Ⅰ (中・高) 教育実習指導 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ
		根尾 文彦 (68) <令和6年4月> 学士 (経営学)	地域協力演習 時事ニュース (国内)Ⅰ キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ 観光と文化 観光インターンシップ 観光と地理 観光まちづくり論 地域フィールドワーク 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	都 恩珍 (55) <令和6年4月> 修士 (言語学)	韓国語と文化Ⅲ 韓国語と文化Ⅳ 海外語学実習Ⅰ (韓国語) 国内日本語教育インターンシップ 海外日本語教育インターンシップA 海外日本語教育インターンシップB 日本語教育ボランティアA 日本語教育ボランティアB 韓国語コミュニケーション 韓国語プレゼンテーション 日韓対照言語学 韓国自由研究 韓国留学準備講座A 韓国留学準備講座B 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究
		石渡 雅之 (52) <令和6年4月> 修士 (教育学)	海外英語資格実習 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 学校文化と英語学習 学校教育インターンシップ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究 教職入門 英語科教育法Ⅰ 英語科教育法Ⅱ 教職実践演習Ⅰ (中・高) 教育実習指導 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ
		根尾 文彦 (69) <令和6年4月> 学士 (経営学)	地域協力演習 時事ニュース (国内)Ⅰ キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ 観光と文化 観光インターンシップ 観光と地理 観光まちづくり論 地域フィールドワーク 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	笹生 友広 (58) ＜令和6年4月＞ 学士（歴史学）
		グローバル社会と宗教 インターンシップ（国内）A インターンシップ（国内）B ボランティア（国内） 時事ニュース（国内）I 観光学概論 観光ホスピタリティ 旅行産業論 宿泊産業論 観光マーケティング 祭と文化 地域ブランディング論 観光と社会 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究
専	教授	布 和 (57) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		日本の文化 中国語と文化Ⅰ 中国語と文化Ⅱ 中国語と文化Ⅲ 中国語と文化Ⅳ 海外研修A 海外研修B 時事ニュース（外国）Ⅱ 海外語学実習Ⅰ（中国語圏） 海外語学実習Ⅱ（中国語圏） 中国語検定対策 中国語リスニング&スピーキン グ 中国語リーディング&ライティ ング 日中交流史 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究
専	教授	Shannon Kiyokawa (62) ＜令和6年4月＞ Master of TESOL （豪州）
		ボランティア（海外） SpeakingⅠ SpeakingⅡ English PresentationⅠ English PresentationⅡ Communicative EnglishⅠ Communicative EnglishⅡ 海外語学実習Ⅰ（英語圏） Study Abroad Preparation B 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	笹生 友広 (58) ＜令和6年4月＞ 学士（歴史学）
		グローバル社会と宗教 インターンシップ（国内）A インターンシップ（国内）B ボランティア（国内） 時事ニュース（国内）I 観光学概論 観光ホスピタリティ 旅行産業論 宿泊産業論 観光マーケティング 祭と文化 地域ブランディング論 観光と社会 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究
専	教授	布 和 (57) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		日本の文化 中国語と文化Ⅰ 中国語と文化Ⅱ 中国語と文化Ⅲ 中国語と文化Ⅳ 海外研修A 海外研修B 時事ニュース（外国）Ⅱ 海外語学実習Ⅰ（中国語圏） 海外語学実習Ⅱ（中国語圏） 中国語検定対策 中国語リスニング&スピーキン グ 中国語リーディング&ライティ ング 日中交流史 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究
専	教授	Shannon Kiyokawa (62) ＜令和6年4月＞ Master of TESOL （豪州）
		ボランティア（海外） SpeakingⅠ SpeakingⅡ English PresentationⅠ English PresentationⅡ Communicative EnglishⅠ Communicative EnglishⅡ 海外語学実習Ⅰ（英語圏） Study Abroad Preparation B 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	笹生 友広 (59) ＜令和6年4月＞ 学士（歴史学）
		グローバル社会と宗教 インターンシップ（国内）A インターンシップ（国内）B ボランティア（国内） 時事ニュース（国内）I 観光学概論 観光ホスピタリティ 旅行産業論 宿泊産業論 観光マーケティング 祭と文化 地域ブランディング論 観光と社会 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究
専	教授	布 和 (58) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		日本の文化 中国語と文化Ⅰ 中国語と文化Ⅱ 海外研修A 海外研修B 時事ニュース（外国）Ⅱ 海外語学実習Ⅰ（中国語圏） 海外語学実習Ⅱ（中国語圏） 中国語検定対策 中国語リスニング&スピーキン グ 中国語リーディング&ライティ ング 日中交流史 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究
専	教授	Shannon Kiyokawa (63) ＜令和6年4月＞ Master of TESOL （豪州）
		ボランティア（海外） SpeakingⅠ SpeakingⅡ English PresentationⅠ English PresentationⅡ Communicative EnglishⅠ Communicative EnglishⅡ 海外語学実習Ⅰ（英語圏） Study Abroad Preparation A 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	Donovan Clarke (61) ＜令和6年4月＞ Master of Laws (米国)	専	教授	Donovan Clarke (61) ＜令和6年4月＞ Master of Laws (米国)	専	教授	Donovan Clarke (62) ＜令和6年4月＞ Master of Laws (米国)
		インターンシップ（海外）A インターンシップ（海外）B インターンシップ（海外）C インターンシップ（海外）D Speaking I Speaking II Reading I Reading II 海外語学実習Ⅰ（英語圏） Business English Communicative English III Communicative English IV International Relations Study Abroad Preparation A 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究			インターンシップ（海外）A インターンシップ（海外）B インターンシップ（海外）C インターンシップ（海外）D Speaking I Speaking II Reading I Reading II 海外語学実習Ⅰ（英語圏） Business English Communicative English III Communicative English IV International Relations Study Abroad Preparation A 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究			インターンシップ（海外）A インターンシップ（海外）B インターンシップ（海外）C インターンシップ（海外）D Speaking I Speaking II Reading I Reading II 海外語学実習Ⅰ（英語圏） Business English Communicative English III Communicative English IV International Relations Study Abroad Preparation B Study Abroad Preparation B 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究
専	教授	小林 愛明 (46) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）	専	教授	小林 愛明 (46) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）	専	教授	小林 愛明 (47) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ Grammar for CommunicationⅠ Grammar for CommunicationⅡ 英語資格講座ⅠB 英語資格講座ⅡB 時事ニュース（外国）Ⅱ アメリカ文学入門 海外語学実習Ⅱ（英語圏） 英語翻訳・通訳 American Studies American Literature 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究			基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 英語資格講座ⅠB 英語資格講座ⅡB 時事ニュース（外国）Ⅱ アメリカ文学入門 海外語学実習Ⅱ（英語圏） 英語翻訳・通訳 American Studies American Literature 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究			基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ Grammar for CommunicationⅠ Grammar for CommunicationⅡ 英語資格講座ⅠB 英語資格講座ⅡB 時事ニュース（外国）Ⅱ アメリカ文学入門 海外語学実習Ⅱ（英語圏） 英語翻訳・通訳 American Studies American Literature 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究
専	准教授	井川 恵理 (62) ＜令和6年4月＞ 修士（文学）	専	准教授	井川 恵理 (62) ＜令和6年4月＞ 修士（文学）	専	准教授	井川 恵理 (63) ＜令和6年4月＞ 修士（文学）
		海外研修A 海外研修B 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 観光英語A 観光英語B 時事ニュース（外国）Ⅱ イギリス文学入門 海外語学実習Ⅱ（英語圏） British Studies British Literature 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究			海外研修A 海外研修B 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 観光英語A 観光英語B 時事ニュース（外国）Ⅱ イギリス文学入門 海外語学実習Ⅱ（英語圏） British Studies British Literature 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究			異文化理解 海外研修A 海外研修B 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 観光英語A 観光英語B 時事ニュース（外国）Ⅱ イギリス文学入門 海外語学実習Ⅱ（英語圏） British Studies British Literature 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	柳田 綾 (46) ＜令和6年4月＞ Master of TESOL (米国)
		Grammar for Communication I Grammar for Communication II English Phonetics I English Phonetics II 英語資格講座 IA 英語資格講座 II A 基礎ゼミナール I 基礎ゼミナール II 時事ニュース（国内） I 専門ゼミナール I 専門ゼミナール II 専門ゼミナール III 専門ゼミナール IV 卒業研究 英語科教育法 III 英語科教育法 IV 教職実践演習 II（中・高）
兼任	教授	嶋守 さやか (52) ＜令和6年4月＞ 博士（社会学）
		現代社会と女性 地域社会
兼任	教授	金子 晃之 (62) ＜令和6年4月＞
		女性と家庭教育
兼任	教授	石山 英明 (54) ＜令和6年4月＞
		芸術の世界
兼任	准教授	基村 昌代 (53) ＜令和6年4月＞
		芸術の世界
兼任	准教授	田端 智美 (54) ＜令和6年4月＞
		芸術の世界
兼任	准教授	森山 雅子 (44) ＜令和6年4月＞
		心の探求
兼任	准教授	加藤 あや美 (44) ＜令和6年10月＞
		異文化理解
兼任	教授	高橋 一郎 (64) ＜令和6年10月＞
		国際関係論
兼任	教授	辻岡 和代 (47) ＜令和7年4月＞
		食と生命の科学
兼任	教授	木村 達志 (60) ＜令和7年4月＞
		食と生命の科学

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	柳田 綾 (46) ＜令和6年4月＞ Master of TESOL (米国)
		Grammar for Communication I Grammar for Communication II English Phonetics I English Phonetics II 英語資格講座 IA 英語資格講座 II A 基礎ゼミナール I 基礎ゼミナール II 時事ニュース（国内） I 専門ゼミナール I 専門ゼミナール II 専門ゼミナール III 専門ゼミナール IV 卒業研究 英語科教育法 III 英語科教育法 IV 教職実践演習 II（中・高）
兼任	教授	嶋守 さやか (52) ＜令和6年4月＞ 博士（社会学）
		ライフコース論 地域社会 ボランティア（海外）
兼任	教授	金子 晃之 (62) ＜令和6年4月＞
		自分と家族
兼任	教授	石山 英明 (54) ＜令和6年4月＞
		芸術の世界
兼任	准教授	基村 昌代 (53) ＜令和6年4月＞
		芸術の世界
兼任	准教授	田端 智美 (54) ＜令和6年4月＞
		芸術の世界 ボランティア（海外）
兼任	准教授	森山 雅子 (44) ＜令和6年4月＞
		心の探求
兼任	准教授	加藤 あや美 (44) ＜令和6年10月＞
		異文化理解
兼任	教授	高橋 一郎 (64) ＜令和6年10月＞
		国際関係論
兼任	教授	辻岡 和代 (47) ＜令和7年4月＞
		食と生命の科学
兼任	教授	木村 達志 (59) ＜令和7年4月＞
		食と生命の科学

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	柳田 綾 (47) ＜令和6年4月＞ Master of TESOL (米国)
		Grammar for Communication I Grammar for Communication II English Phonetics I English Phonetics II 英語資格講座 IA 英語資格講座 II A 基礎ゼミナール I 基礎ゼミナール II 時事ニュース（国内） I 専門ゼミナール I 専門ゼミナール II 専門ゼミナール III 専門ゼミナール IV 卒業研究 英語科教育法 III 英語科教育法 IV 教職実践演習 II（中・高）
兼任	教授	嶋守 さやか (53) ＜令和6年4月＞ 博士（社会学）
		ライフコース論 地域社会 ボランティア（海外）
兼任	教授	金子 晃之 (63) ＜令和6年4月＞
		自分と家族
兼任	教授	石山 英明 (55) ＜令和6年4月＞
		芸術の世界
兼任	准教授	基村 昌代 (54) ＜令和6年4月＞
		芸術の世界
兼任	准教授	田端 智美 (55) ＜令和6年4月＞
		芸術の世界 ボランティア（海外）
兼任	准教授	森山 雅子 (45) ＜令和6年4月＞
		心の探求
兼任	教授	辻岡 和代 (48) ＜令和7年4月＞
		食と生命の科学
兼任	教授	木村 達志 (60) ＜令和7年4月＞
		食と生命の科学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	寺田 恭子 (61) ＜令和6年10月＞ スポーツ健康論
兼任	教授	佐久間 潔 (65) ＜令和6年4月＞ 情報社会論 コンピュータⅠ コンピュータⅡ
兼任	講師	Rebecca Jackson (51) ＜令和6年4月＞ Writing for CommunicationⅠ Writing for CommunicationⅡ ReadingⅠ ReadingⅡ English PresentationⅠ English PresentationⅡ Communicative EnglishⅠ Communicative EnglishⅡ 英語資格講座ⅠC 英語資格講座ⅡC Advanced WritingⅠ Advanced WritingⅡ Speech & Presentation
兼任	講師	金 三淑 (53) ＜令和6年4月＞ 韓国語と文化Ⅰ 韓国語と文化Ⅱ 韓国語と文化Ⅲ 韓国語と文化Ⅳ 海外研修A 海外研修B 海外語学実習Ⅱ（韓国語） 韓国語表現文法 韓国語リスニング&スピーキン グ 韓国語リーディング&ライティ ング 韓国現代文学 日韓文化比較 韓国インターンシップ 検定韓国語上級A 検定韓国語上級B
兼任	講師	中村 奈津子 (54) ＜令和6年4月＞ 女性とジェンダー
兼任	講師	太田 昌孝 (64) ＜令和6年4月＞ 文学の世界
兼任	講師	今福 亮 (30) ＜令和6年4月＞ 生き方の探求
兼任	講師	茶谷 淳一 (62) ＜令和6年10月＞ 生活と経済
兼任	講師	小久保 嘉紀 (45) ＜令和6年10月＞ 人間と歴史

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	寺田 恭子 (60) ＜令和6年10月＞ スポーツ健康論
兼任	教授	佐久間 潔 (65) ＜令和6年4月＞ 情報社会論 コンピュータⅠ コンピュータⅡ
兼任	講師	Rebecca Jackson (51) ＜令和6年4月＞ Writing for CommunicationⅠ Writing for CommunicationⅡ ReadingⅠ ReadingⅡ English PresentationⅠ English PresentationⅡ Communicative EnglishⅠ Communicative EnglishⅡ 英語資格講座ⅠC 英語資格講座ⅡC Advanced WritingⅠ Advanced WritingⅡ Speech & Presentation
兼任	講師	金 三淑 (53) ＜令和6年4月＞ 韓国語と文化Ⅰ 韓国語と文化Ⅱ 韓国語と文化Ⅲ 韓国語と文化Ⅳ 海外研修A 海外研修B 海外語学実習Ⅱ（韓国語） 韓国語表現文法 韓国語リスニング&スピーキン グ 韓国語リーディング&ライティ ング 韓国現代文学 日韓文化比較 韓国インターンシップ 検定韓国語上級A 検定韓国語上級B
兼任	講師	中村 奈津子 (54) ＜令和6年4月＞ ジェンダー論
兼任	講師	太田 昌孝 (64) ＜令和6年4月＞ 文学の世界
兼任	講師	今福 亮 (30) ＜令和6年4月＞ 生き方の探求
兼任	講師	茶谷 淳一 (62) ＜令和6年10月＞ 生活と経済
兼任	講師	小久保 嘉紀 (44) ＜令和6年10月＞ 人間と歴史

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	寺田 恭子 (61) ＜令和6年10月＞ スポーツ健康論
兼任	教授	加藤 和幸 (68) ＜令和7年10月＞ 情報社会論
兼任	講師	Rebecca Jackson (52) ＜令和6年4月＞ Writing for CommunicationⅠ Writing for CommunicationⅡ ReadingⅠ ReadingⅡ English PresentationⅠ English PresentationⅡ Communicative EnglishⅠ Communicative EnglishⅡ 英語資格講座ⅠC 英語資格講座ⅡC Advanced WritingⅠ Advanced WritingⅡ Speech & Presentation
兼任	講師	金 三淑 (54) ＜令和6年4月＞ 韓国語と文化Ⅰ 韓国語と文化Ⅱ 海外研修A 海外研修B 海外語学実習Ⅱ（韓国語） 韓国語表現文法 韓国語リスニング&スピーキン グ 韓国語リーディング&ライティ ング 韓国現代文学 日韓文化比較 韓国インターンシップ 検定韓国語上級A 検定韓国語上級B
兼任	講師	中村 奈津子 (55) ＜令和6年4月＞ ジェンダー論
兼任	講師	今福 亮 (31) ＜令和6年4月＞ 生き方の探求
兼任	講師	茶谷 淳一 (63) ＜令和6年10月＞ 生活と経済
兼任	講師	小久保 嘉紀 (45) ＜令和6年10月＞ 人間と歴史

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師		辻 広志 (61) ＜令和7年4月＞ 環境の科学
兼任 講師		上原 隆司 (43) ＜令和7年4月＞ 生き物の社会
兼任 講師		鬼頭 茉衣 (28) ＜令和7年10月＞ スポーツⅠ
兼任 講師		横井 康博 (56) ＜令和7年10月＞ スポーツⅠ
兼任 講師		川西 司 (34) ＜令和7年10月＞ スポーツⅡ
兼任 講師		伊藤 僚 (44) ＜令和7年10月＞ スポーツⅡ
兼任 講師		高瀬 慎二 (43) ＜令和7年10月＞ 統計学
兼任 講師		南 裕一郎 (52) ＜令和7年10月＞ 社会調査法 データサイエンス基礎
兼任 講師		古藪 真紀子 (55) ＜令和8年4月＞ NGO・NPO論
兼任 講師		塚本 高浩 (33) ＜令和8年4月＞ 現代社会と企業
兼任 講師		富松 エミ (64) ＜令和6年4月＞ ポルトガル語と文化Ⅰ ポルトガル語と文化Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師		辻 広志 (60) ＜令和7年4月＞ 環境の科学
兼任 講師		原野 智広 (47) ＜令和6年4月＞ 生き物の社会
兼任 講師		鬼頭 茉衣 (28) ＜令和7年10月＞ スポーツⅠ
兼任 講師		横井 康博 (55) ＜令和7年10月＞ スポーツⅠ
兼任 講師		川西 司 (33) ＜令和7年10月＞ スポーツⅡ
兼任 講師		伊藤 僚 (44) ＜令和7年10月＞ スポーツⅡ
兼任 講師		高瀬 慎二 (43) ＜令和7年10月＞ 統計学
兼任 講師		南 裕一郎 (52) ＜令和7年10月＞ 社会調査法 データサイエンス基礎
兼任 講師		古藪 真紀子 (55) ＜令和8年4月＞ NGO・NPO論
兼任 講師		塚本 高浩 (33) ＜令和8年4月＞ 現代社会と企業
兼任 講師		富松 エミ (64) ＜令和6年4月＞ ポルトガル語と文化Ⅰ ポルトガル語と文化Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師		辻 広志 (61) ＜令和7年4月＞ 環境の科学
兼任 講師		原野 智広 (48) ＜令和7年4月＞ 生き物の社会
兼任 講師		鬼頭 茉衣 (28) ＜令和7年10月＞ スポーツⅠ
兼任 講師		廖 本嵩 (27) ＜令和7年10月＞ スポーツⅠ
兼任 講師		安江 あ也香 (34) ＜令和7年10月＞ スポーツⅡ
兼任 講師		伊藤 僚 (44) ＜令和7年10月＞ スポーツⅡ
兼任 講師		高瀬 慎二 (43) ＜令和7年10月＞ 統計学
兼任 講師		南 裕一郎 (52) ＜令和7年10月＞ 社会調査法 データサイエンス基礎
兼任 講師		古藪 真紀子 (55) ＜令和8年4月＞ NGO・NPO論
兼任 講師		若松 亮太 (51) ＜令和8年4月＞ NGO・NPO論
兼任 講師		塚本 高浩 (33) ＜令和8年4月＞ 現代社会と企業
兼任 講師		富松 エミ (65) ＜令和6年4月＞ ポルトガル語と文化Ⅰ ポルトガル語と文化Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	ロンセロス ロサリオ (61) ＜令和6年4月＞
		スペイン語と文化Ⅰ スペイン語と文化Ⅱ
兼任	講師	中島 潤 (51) ＜令和6年4月＞
		フランス語と文化Ⅰ フランス語と文化Ⅱ
兼任	講師	早野 暁 (55) ＜令和7年10月＞
		日本国憲法
兼任	講師	鬼頭 祐太 (28) ＜令和6年4月＞
		日本語表現Ⅰ 日本語表現Ⅱ 日本語表現Ⅲ 日本語表現Ⅳ
兼任	講師	韓 丹 (32) ＜令和6年4月＞
		サスティナブルな社会 多文化社会論
兼任	講師	西原 麻里 (41) ＜令和6年4月＞
		日本のポピュラーカルチャー アニメーション論
兼任	講師	三苦 佳子 (66) ＜令和7年10月＞
		楽しい古典芸能
兼任	講師	高谷 邦彦 (58) ＜令和7年4月＞
		情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ コンテンツ制作 観光とソーシャルメディア
兼任	講師	木下 博光 (59) ＜令和8年4月＞
		ITスキル応用Ⅰ ITスキル応用Ⅱ
兼任	講師	天池 洋介 (45) ＜令和7年10月＞
		ビジネス環境とマーケティング
兼任	講師	笹岡 篤子 (55) ＜令和8年4月＞
		英語翻訳・通訳
兼任	講師	村木（守本）恭子 (44) ＜令和8年4月＞
		Theory of English Structure 応用言語学

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	ロンセロス ロサリオ (61) ＜令和6年4月＞
		スペイン語と文化Ⅰ スペイン語と文化Ⅱ
兼任	講師	中島 潤 (51) ＜令和6年4月＞
		フランス語と文化Ⅰ フランス語と文化Ⅱ
兼任	講師	早野 暁 (55) ＜令和7年10月＞
		日本国憲法
兼任	講師	鬼頭 祐太 (28) ＜令和6年4月＞
		日本語表現Ⅰ 日本語表現Ⅱ 日本語表現Ⅲ 日本語表現Ⅳ
兼任	講師	韓 丹 (32) ＜令和6年4月＞
		サスティナブルな社会 多文化社会論
兼任	講師	梶川 瑛里 (31) ＜令和6年4月＞
		日本のポピュラーカルチャー アニメーション論
兼任	講師	三苦 佳子 (66) ＜令和7年10月＞
		楽しい古典芸能
兼任	講師	高谷 邦彦 (58) ＜令和7年4月＞
		情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ コンテンツ制作 観光とソーシャルメディア
兼任	講師	木下 博光 (59) ＜令和8年4月＞
		ITスキル応用Ⅰ ITスキル応用Ⅱ
兼任	講師	天池 洋介 (45) ＜令和7年10月＞
		ビジネス環境とマーケティング
兼任	講師	笹岡 篤子 (55) ＜令和8年4月＞
		英語翻訳・通訳
兼任	講師	村木（守本）恭子 (44) ＜令和8年4月＞
		Theory of English Structure 応用言語学

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	ロンセロス ロサリオ (62) ＜令和6年4月＞
		スペイン語と文化Ⅰ スペイン語と文化Ⅱ
兼任	講師	中島 潤 (52) ＜令和6年4月＞
		フランス語と文化Ⅰ フランス語と文化Ⅱ
兼任	講師	早野 暁 (55) ＜令和7年10月＞
		日本国憲法
兼任	講師	鬼頭 祐太 (29) ＜令和6年4月＞
		日本語表現Ⅰ 日本語表現Ⅱ 日本語表現Ⅲ 日本語表現Ⅳ
兼任	講師	韓 丹 (33) ＜令和6年4月＞
		中国語と文化Ⅲ 中国語と文化Ⅳ サスティナブルな社会 多文化社会論
兼任	講師	梶川 瑛里 (32) ＜令和6年4月＞
		日本のポピュラーカルチャー アニメーション論
兼任	講師	三苦 佳子 (66) ＜令和7年10月＞
		楽しい古典芸能
兼任	講師	高谷 邦彦 (58) ＜令和7年4月＞
		情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ コンテンツ制作 観光とソーシャルメディア
兼任	講師	木下 博光 (59) ＜令和8年4月＞
		ITスキル応用Ⅰ ITスキル応用Ⅱ
兼任	講師	天池 洋介 (45) ＜令和7年10月＞
		ビジネス環境とマーケティング
兼任	講師	笹岡 篤子 (55) ＜令和8年4月＞
		英語翻訳・通訳
兼任	講師	村木（守本）恭子 (44) ＜令和8年4月＞
		Theory of English Structure 応用言語学

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	小出（福田）祥子 (42) ＜令和6年10月＞
		日本語概論 言語学
兼任	講師	佐田 明美 (57) ＜令和7年4月＞
		日本語教育概論Ⅰ 日本語教育概論Ⅱ 日本語教育法Ⅰ 日本語教育法Ⅱ 日本語教育演習Ⅰ 日本語教育演習Ⅱ
兼任	講師	大西 美穂 (61) ＜令和7年4月＞
		日英語比較Ⅰ 日英語比較Ⅱ
兼任	講師	寺澤 陽美 (59) ＜令和8年4月＞
		社会と言語
兼任	講師	李 正子 (53) ＜令和6年4月＞
		韓国語映像翻訳 韓国サブカルチャー 検定韓国語初級A 検定韓国語初級B
兼任	講師	孫 英愛 (53) ＜令和8年10月＞
		ビジネス韓国語
兼任	講師	李 賢珍 (48) ＜令和6年4月＞
		韓国事情
兼任	講師	李 孝心 (62) ＜令和8年4月＞
		韓国の歴史 韓国伝統文化と思想
兼任	講師	金 昭鎭 (55) ＜令和6年4月＞
		韓国語と文化Ⅰ 韓国語と文化Ⅱ 検定韓国語中級A 検定韓国語中級B
兼任	講師	榊原 仁 (67) ＜令和8年4月＞
		観光政策論 交通産業論
兼任	講師	近藤 千恵子 (51) ＜令和7年4月＞
		エアライン講座

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	小出（福田）祥子 (42) ＜令和6年10月＞
		日本語概論 言語学
兼任	講師	佐田 明美 (57) ＜令和7年4月＞
		日本語教育概論Ⅰ 日本語教育概論Ⅱ 日本語教育法Ⅰ 日本語教育法Ⅱ 日本語教育演習Ⅰ 日本語教育演習Ⅱ
兼任	講師	大西 美穂 (61) ＜令和7年4月＞
		日英語比較Ⅰ 日英語比較Ⅱ
兼任	講師	寺澤 陽美 (59) ＜令和8年4月＞
		社会と言語
兼任	講師	李 正子 (53) ＜令和6年4月＞
		韓国語映像翻訳 韓国サブカルチャー 検定韓国語初級A 検定韓国語初級B
兼任	講師	孫 英愛 (53) ＜令和8年10月＞
		ビジネス韓国語
兼任	講師	李 賢珍 (48) ＜令和6年4月＞
		韓国事情
兼任	講師	李 孝心 (62) ＜令和8年4月＞
		韓国の歴史 韓国伝統文化と思想
兼任	講師	金 昭鎭 (55) ＜令和6年4月＞
		韓国語と文化Ⅰ 韓国語と文化Ⅱ 検定韓国語中級A 検定韓国語中級B 韓国語表現文法
兼任	講師	榊原 仁 (67) ＜令和8年4月＞
		観光政策論 交通産業論
兼任	講師	近藤 千恵子 (51) ＜令和7年4月＞
		エアライン講座

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	小出（福田）祥子 (42) ＜令和6年10月＞
		ことばの世界（旧：文学の世界） 日本語概論 言語学
兼任	講師	佐田 明美 (57) ＜令和7年4月＞
		日本語教育概論Ⅰ 日本語教育概論Ⅱ 日本語教育法Ⅰ 日本語教育法Ⅱ 日本語教育演習Ⅰ 日本語教育演習Ⅱ
兼任	講師	大西 美穂 (61) ＜令和7年4月＞
		日英語比較Ⅰ 日英語比較Ⅱ
兼任	講師	寺澤 陽美 (59) ＜令和8年4月＞
		社会と言語
兼任	講師	李 正子 (54) ＜令和6年4月＞
		韓国語映像翻訳 韓国サブカルチャー 検定韓国語初級A 検定韓国語初級B
兼任	講師	孫 英愛 (53) ＜令和8年10月＞
		ビジネス韓国語
兼任	講師	李 賢珍 (49) ＜令和6年4月＞
		韓国事情
兼任	講師	李 孝心 (62) ＜令和8年4月＞
		韓国の歴史 韓国伝統文化と思想
兼任	講師	金 昭鎭 (56) ＜令和6年4月＞
		韓国語と文化Ⅰ 韓国語と文化Ⅱ 検定韓国語中級A 検定韓国語中級B
兼任	講師	朴 成柱 (29) ＜令和7年10月＞
		韓国語表現文法
兼任	講師	榊原 仁 (67) ＜令和8年4月＞
		観光政策論 交通産業論
兼任	講師	近藤 千恵子 (51) ＜令和7年4月＞
		エアライン講座

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	首藤 貴子 (50) ＜令和6年10月＞ 教育原理 教育方法・技術論 教育課程論
		木村 洋太 (48) ＜令和6年10月＞ 学習心理学 教育相談
兼任	講師	澤田 好江 (70) ＜令和7年4月＞ 道德教育の指導法 生徒・進路指導論 特別活動・総合的な学習の時間の指導法
		長崎 龍樹 (58) ＜令和8年4月＞ 特別支援基礎論
兼任	講師	小柳 雅子 (45) ＜令和8年10月＞ 教育行政・制度論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	首藤 貴子 (50) ＜令和6年10月＞ 教育原理 教育方法・技術論(ICT活用含む) 教育課程論
		木村 洋太 (48) ＜令和6年10月＞ 学習心理学 教育相談
兼任	講師	澤田 好江 (70) ＜令和7年4月＞ 道德教育の指導法 生徒・進路指導論 特別活動・総合的な学習の時間の指導法
		長崎 龍樹 (58) ＜令和8年4月＞ 特別支援基礎論
兼任	講師	小柳 雅子 (45) ＜令和8年10月＞ 教育行政・制度論
兼任	講師	松岡 佐和美 (45) ＜令和6年4月＞ Grammar for Communication I Grammar for Communication II
		佐分 ジュディス スミス (40) ＜令和6年4月＞ Speaking I Speaking II
兼任	講師	Senga Melissa (63) ＜令和6年4月＞ Writing for Communication I Writing for Communication II Reading I Reading II
		Ogura Fleur Danielle (42) ＜令和6年4月＞ Writing for Communication I Writing for Communication II
兼任	講師	三浦（志賀）紀美代 (45) ＜令和6年4月＞ English Phonetics I English Phonetics II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	首藤 貴子 (51) ＜令和6年10月＞ 教育原理 教育方法・技術論(ICT活用含む) 教育課程論
		木村 洋太 (48) ＜令和6年10月＞ 学習心理学 教育相談
兼任	講師	澤田 好江 (70) ＜令和7年4月＞ 道德教育の指導法 生徒・進路指導論 特別活動・総合的な学習の時間の指導法
		長崎 龍樹 (58) ＜令和8年4月＞ 特別支援基礎論
兼任	講師	小柳 雅子 (45) ＜令和8年10月＞ 教育行政・制度論
兼任	講師	松岡 佐和美 (46) ＜令和6年4月＞ Grammar for Communication I Grammar for Communication II
		佐分 ジュディス スミス (41) ＜令和6年4月＞ Speaking I Speaking II
兼任	講師	Senga Melissa (64) ＜令和6年4月＞ Writing for Communication I Writing for Communication II Reading I Reading II
		Ogura Fleur Danielle (43) ＜令和6年4月＞ Writing for Communication I Writing for Communication II
兼任	講師	三浦（志賀）紀美代 (46) ＜令和6年4月＞ English Phonetics I English Phonetics II
		山田 佳子 (52) ＜令和7年4月＞ English Phonetics I English Phonetics II

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和6年度】

- ・上原隆司兼任講師辞任により、原野智広兼任講師就任。
- ・学修機会の拡大を鑑み、「ボランティア（海外）」担当者として嶋守さやか兼任講師、田端智美兼任講師を追加。
- ・入学者の履修希望、学修支援・教育指導の充実を鑑み、金三淑兼任講師を兼任講師として採用。
- ・入学者の履修希望を鑑みたクラス増により、「韓国語表現文法」担当者として金昭鎭兼任講師を追加。
- ・西原麻里兼任講師辞任により、梶川瑛里兼任講師就任。
- ・入学者の学力層及び履修者数を鑑みたクラス増により松岡佐和美兼任講師、佐分ジュディスミス兼任講師、Senga Combley Melissa兼任講師、Ogura Fleur Danielle兼任講師、三浦（志賀）紀美代兼任講師、浅岡悦子兼任講師就任。
- ・入学者の学力層及び履修者数を鑑みたクラス増により都恩珍専任教授を同科目担当者として追加。

【令和7年度】

- ・金三淑兼任講師の一身上の都合により、「韓国語と文化Ⅲ」、「韓国語と文化Ⅳ」担当者として都教授（専任教員）就任。
- ・Shannon Kiyokawa教授（専任教員）及びDonovan Clarke教授（専任教員）の都合により、「Study Abroad Preparation A」、「Study Abroad Preparation B」の担当を変更。
- ・入学者の学力層及び履修者数を鑑みたクラス増により「Grammar for Communication I」、「Grammar for Communication II」担当者として小林教授（専任教員）就任。
- ・佐久間潔兼任講師の定年退職により、「コンピュータⅠ」、「コンピュータⅡ」担当者として林里奈教授（専任教員）、「情報社会論」担当者として加藤和幸兼任教授就任。
- ・加藤あや美兼任講師の一身上の都合により、「異文化理解」担当者として井川恵理准教授（専任教員）就任。
- ・横井康博兼任講師の一身上の都合により、「スポーツⅠ」担当者として廖本嵩兼任講師就任。
- ・川西司兼任講師の一身上の都合により、「スポーツⅡ」担当者として安江あ也香兼任講師就任。
- ・古藪真紀子兼任講師の一身上の都合により、「NGO・NPO論」担当者として若松亮太兼任講師就任。
- ・布和教授（専任教員）の一身上の都合により、「中国語と文化Ⅲ」、「中国語と文化Ⅳ」担当者として韓丹兼任講師就任。
- ・太田昌孝兼任講師の定年退職により、「ことばの世界（旧：文学の世界）」担当者として小出（福田）祥子兼任講師就任。
- ・金昭鎭兼任講師の一身上の都合により、「韓国語表現文法」担当者として朴成柱兼任講師就任。
- ・入学者の学力層及び履修者数を鑑みたクラス増により、「English Phonetics I」、「English Phonetics II」担当者として山田佳子兼任講師就任。
- ・入学者の学力層及び履修者数を鑑みたクラス増により、「日本語表現Ⅰ」、「日本語表現Ⅱ」担当者として山下大希兼任講師就任。
- ・高橋一郎兼任講師の一身上の都合により、「国際関係論」担当者として塚本江美兼任講師就任。
- ・入学者の学力層及び履修者数を鑑みたクラス増により、「英語資格講座ⅠA」、「英語資格講座ⅡA」担当者として新谷敦子兼任講師就任。
- ・入学者の学力層及び履修者数を鑑みたクラス増により、「日本語表現Ⅲ」、「日本語表現Ⅳ」担当者として浅岡悦子兼任講師就任。

(注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合**は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（A C教員審査）を受けてください。**原則としてA C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ A C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注)・計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）」の設置の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2) -④ 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2) -② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2) -① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
8 名	4 名

(注)・大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。

・高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2) -② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
8	2	0	0	10	0	9	2	0	0	11	0
(8)	(2)	(0)	(0)	(10)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
9	2	0	0	11	0	9	2	0	0	11	0
[1]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[1]	[0]	[0]	[0]	[1]	[0]

(注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、**認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入**するとともに、

[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、

[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) -③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	1 名	1 名

(注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、

及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている

教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) -④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{11}{10} = \boxed{110} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{11} = \boxed{9.09} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
		該当なし						
合計（D）					後任補充状況の集計（E）			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
〇〇	人	必修	#VALUE!	科目	必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目
		選択	#VALUE!	科目	選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目
		自由	#VALUE!	科目	自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目
		計	0	科目	計	0 科目	計	0 科目

(注)・認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。

- ・「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「（3）- ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし						
合計（F）					後任補充状況の集計（G）			
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
〇〇	人	必修	#VALUE!	科目	必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目
		選択	#VALUE!	科目	選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目
		自由	#VALUE!	科目	自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目
		計	0	科目	計	0 科目	計	0 科目

(注)・一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記（3）- ① ・ （3）- ② の合計

合計（D）+（F）					後任補充状況の集計（E）+（G）			
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
#VALUE!	人	必修	#VALUE!	科目	必修	##### 科目	必修	##### 科目
		選択	#VALUE!	科目	選択	##### 科目	選択	##### 科目
		自由	#VALUE!	科目	自由	##### 科目	自由	##### 科目
		計	#VALUE!	科目	計	##### 科目	計	##### 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{\#VALUE!}{\#VALUE!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和6年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

該当なし 人

(注)・（3）- ①、（3）- ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

- ・令和7年度開設の学科等の場合、（D）+（F）と同数を記載してください。

(3) ー⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合 計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
〇〇	人	必修	#VALUE!	科目	必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目
		選択	#VALUE!	科目	選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目
		自由	#VALUE!	科目	自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目
		計	0	科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(注)・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼任教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

(注)・ 上記（3）の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入し

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
届 出 時 (令和6年)	・保育学部国際教養こども学科の収容定員未充足の是正に努めること。	【届出】 遵守事項	本学科は、2018年度の設置以来3年間は定員を充足したが、その後コロナ禍の影響で定員未充足状態が続いている。コロナ禍には、学科の特徴であるニュージーランドとオーストラリアへの留学プログラムが滞ったが、両プログラムも2023年度からは正常化しており、国内での学びと留学中の学修内容の連続性を向上させている。入学者も2022年度に底を打ち、増加傾向の基調にあると言える。また、キャンパス将来構想に沿って、併設する名古屋短期大学専攻科保育専攻留学タイプの募集停止に伴う編入生受入のため、同短大からの編入の教務上のスムーズな移行について整理し、編入希望者への広報を行っている。(6)
(令和7年)	・保育学部国際教養こども学科の収容定員未充足の是正に努めること。	【届出】 遵守事項	2020年度入学生をピークに他府県からの入学者割合が減っていることを受けて、学科の全国的な認知度を高めるための方策として学科リーフレットの送付や出張講義の案内など、多角的な広報に努めている。また、在籍生の満足度を高めHPやSNSで学科の魅力を発信し、学科のユニーク且つ未来を見据えた保育者養成における教育内容を積極的に広報することにより、定員充足を図る。さらに、名古屋短期大学専攻科保育専攻留学タイプの募集停止に伴う編入生受入のため、これまで入学の指定校依頼をしていた学校に対しての編入説明会を行う予定である。(6)
			本学科は、2018年度に設置されて以来、最初の3年間は定員を充足していたが、その後のコロナ禍の影響で定員未充足の状態が続いている。さらに、2022年度以降の急激な円安により、ニュージーランドへの短期留学およびオーストラリアへの長期留学プログラムを必修とする本学科は、依然として定員回復に至っていない。しかし、2023年度から両留学プログラムが正常化し、国内での学びと留学中の学修内容の連続性が向上した結果、2025年度入学者の半数以上が大学所在地の愛知県外から入学している。 また、キャンパス将来構想に基づき、名古屋短期大学専攻科保育専攻の留学タイプの募集停止(2024年度)に伴い、同短大からの編入生受け入れのためのスムーズな移行が整備された結果、2025年度には初めて編入生を受け入れることができた。他大学を含む編入希望者への広報も進められている。 なお、2025年度より、現行の教育課程は変更せず、現在実施している教育課程の実態および社会的需要に基づいた学部名称の変更が行われた。
			今後は、愛知県内の国際科や保育コース等に対して、さらに積極的な広報活動を展開する。具体的には、学科リーフレットの送付や出張講義の案内、入学実績のある高校への訪問説明など、多角的に広報活動を行う。このようにして、全国および県内における学科の知名度を向上させるため、引き続き積極的な広報活動を展開する。 また、新入生には資格取得奨学金を通じて、食育指導士資格と食物アレルギーアドバイザー準2級資格を無償で受講できる特色づくりが進められている。さらに、地域貢献や産学共同を通じて学科の知名度を向上させるため、研究会やイベントの開催が計画されている。 在籍生の満足度を向上させるためには、留学提携校とのさらなる連携強化や教育課程の見直し、学外活動の支援等が考慮されている。 さらに、オーストラリアへの保育留学において提携を結んでいる東京のこども教育宝仙大学との連携強化を図ることで、留学プログラムの充実と満足度の向上を目指す。これらの取組や学科の魅力をホームページやSNSを活用して発信し、ユニークで未来を見据えた保育者養成に関する教育内容を積極的に広報する。 なお、昨年度はオープンキャンパスが昨年度と比較して増加傾向にある。一人一人の参加者に対して丁寧な案内を行い、入学動機につなげる。入試制度の変更点は、①総合型選抜(さくら選抜)の受験機会拡充、②2種類の公募制および専門総合推薦入試の新設、③一般選抜における英語外部試験活用の拡大である。これにより定員充足を図る。 また、今年度初めて編入生を迎えた実績を基に、編入の指定校依頼や幅広い広報を行う。編入生の受け入れ体制を一層強化し、定員充足に向けた施策が一層推進される。

(注)・「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和 6 年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和 6 年度報告書の記載内容を転記し文末に「（６）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（７）」と記載してください。

【令和 6 年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和 6 年度報告書の記載内容を転記し文末に「（６）（７）」と記載してください。

【令和 7 年度から新たに調査対象となった学科等又は令和 6 年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（７）」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。
その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<国際学部 国際学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
①学則変更 変更部分は次のとおりである。 (保育学部及び保育学科の名称の変更の改正) ※保育学部を教育保育学部、保育学科を教育保育学科へ名称変更 第1条(目的)、第4条(学部・学科及び収容定員)、第24条(授業科目)、第29条(教職課程)、第30条(保育士課程)、第38条(学位の授与)、第45条(学部教授会)、別表1～3、5の学部学科名に係る変更(詳細略) (入学志願者の資格の改正) 第10条 本学に入学 志願 できる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。 (1) 高等学校を卒業した者 又は卒業見込みの者 (2) ～ (4) (略) (5) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧 規程 による大学入学資格検定に合格した者を含む)。 (以下略) (学則の整備のため) 第5条(修業年限及び在学年限)、第17条(休学)、第22条(除籍)、第29条(教職課程)に係る文言整理(詳細略) (授業内容との相当性を鑑みたうえでの科目名の変更) ※別表第1のうち、次の科目(共通教育科目)の名称変更 文学の世界 (令和8年度入学生より適用の教育充実費・演習教材費・実習費の改定) ※別表第5のうち、教育充実費・演習教材費・実習費の改定 教育充実費 392,000(年額) 演習教材費 40,000(年額) 実習費 100,000(年額)(国際教養こども学科のみ) (国際教養こども学科の科目追加に伴う学則変更) ※別表第1のうち、国際教養こども学科の専門教育科目を追加(詳細略)	変更部分は左記に対応して次のとおりである。 (保育学部及び保育学科の名称の変更の改正) ※保育学部を教育保育学部、保育学科を教育保育学科へ名称変更 第1条(目的)、第4条(学部・学科及び収容定員)、第24条(授業科目)、第29条(教職課程)、第30条(保育士課程)、第38条(学位の授与)、第45条(学部教授会)、別表1～3、5の学部学科名に係る変更(詳細略) (入学志願者の資格の改正) 第10条 本学に入学 志願 できる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。 (1) 高等学校を卒業した者 又は卒業見込みの者 (2) ～ (4) (略) (5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であること その他文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。)で、文部 科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣 が定める日以後に修了した者 (6) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧 規程 による大学入学資格検定に合格した者を含む)。 (以下略) (学則の整備のため) 第5条(修業年限及び在学年限)、第17条(休学)、第22条(除籍)、第29条(教職課程)に係る文言整理(詳細略) (授業内容との相当性を鑑みたうえでの科目名の変更) ※別表第1のうち、次の科目(共通教育科目)の名称変更 ことばの世界 (令和8年度入学生より適用の教育充実費・演習教材費・実習費の改定) ※別表第5のうち、教育充実費・演習教材費・実習費の改定 教育充実費 420,000(年額) 演習教材費 48,000(年額) 実習費 120,000(年額)(国際教養こども学科のみ) (国際教養こども学科の科目追加に伴う学則変更) ※別表第1のうち、国際教養こども学科の専門教育科目を追加(詳細略)

②国際学部 メジャー・マイナー専攻の認定に関する内規/各種検定試験の受験料支援制度に関する要項/各種資格・検定取得及び受賞による単位認定に関する取扱申し合わせ事項の作成 (教育方法の整備のため) ※詳細は別紙1参照。	②国際学部 メジャー・マイナー専攻の認定に関する内規/各種検定試験の受験料支援制度に関する要項/各種資格・検定取得及び受賞による単位認定に関する取扱申し合わせ事項の作成 ※詳細は別紙1参照。
③入試ごとのアドミッションポリシー変更 (多様な学修体験を適性や志望動機の判断材料に資するため) ※詳細は別紙2参照。	③入試ごとのアドミッションポリシー変更 (多様な学修体験を適性や志望動機の判断材料に資するため) ※詳細は別紙2参照。
④学校法人桜花学園 事務組織及び事務分掌規程の変更 (既存部門の業務効率化と中長期計画を見通した事業の推進を加速するため) ※詳細は別紙3参照。	④学校法人桜花学園 事務組織及び事務分掌規程の変更 ※詳細は別紙3参照。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

学則第3条に基づき桜花学園大学FD委員会及び国際学部FD委員会を設置している。

※別紙4参照。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

円滑な委員会活動の観点から、桜花学園大学FD委員会と国際学部FD委員会は密接に連携を取りながらFD活動に努める。従って、両委員会は合同開催予定である。

国際学部の前身である学芸学部の実績として、令和5年度の桜花学園大学FD委員会及び学芸学部FD委員会の開催状況は次のとおり。

第1回	4月3日	参加教員5名、事務職員1名
第2回	4月10日	参加教員5名、事務職員1名
第3回	5月15日	参加教員4名、事務職員1名
第4回	6月19日	参加教員4名、事務職員1名
第5回	7月24日	参加教員5名、事務職員1名
第6回	9月18日	参加教員5名、事務職員1名
第7回	10月16日	参加教員5名、事務職員1名
第8回	11月20日	参加教員5名、事務職員1名
第9回	12月11日	参加教員5名、事務職員0名
第10回	1月22日	参加教員5名、事務職員1名
第11回	2月5日	参加教員5名、事務職員1名

c 委員会の審議事項等

国際学部の前身である学芸学部の実績として、令和5年度の桜花学園大学FD委員会及び学芸学部FD委員会の審議事項は次のとおり。

- 第1回 委員長選出、FSD研修会について、FD委員会報告書の作成について
- 第2回 2024年度活動方針について、FSD研修会について、相互授業参観について、学生との共同FD活動について、中間授業アンケートについて、FD委員会報告書の作成について
- 第3回 FSD研修会について、相互授業参観について、学生との共同FD活動について、PROGテスト・社会人基礎力シートについて、FD委員会報告書の作成について
- 第4回 FSD研修会について、相互授業参観について、学生との共同FD活動について、PROGテスト・社会人基礎力シートについて、期末授業アンケートの回収率向上の取り組みについて
- 第5回 FSD研修会の反省と課題、相互授業参観について、前期期末授業アンケートの実施状況、後期の取り組みについて
- 第6回 前期OGP推薦について、前期・期末授業アンケートの実施状況、後期の取り組みについて（授業中間アンケート、授業相互参観）、学外研修会参加報告
- 第7回 後期の取り組みについて（授業中間アンケート、授業相互参観）、FD委員会報告書の作成について
- 第8回 後期の取り組みについて（授業中間アンケート、授業相互参観）
- 第9回 授業相互参観経過報告、2025年度のFD研修会のテーマについて
- 第10回 授業相互参観経過報告、OGP選出について、2025年度のFD研修会について
- 第11回 OGP選出について、FD委員会報告書の作成について

② 実施状況

国際学部の前身である学芸学部の実績として、令和6年度の桜花学園大学FD委員会及び学芸学部FD委員会の実施状況は次のとおり。

a 実施内容

a-1 FSD研修会

本キャンパスに併設される名古屋短期大学及び事務局と協力し、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を目的とし、キャンパス内の全教職員を受講対象として実施している。

a-2 相互授業参観

学生の学修意欲の向上を促進する教育効果の高い教育実践を教員間で共有し、教授方法の向上に資することを目的とし、全学の専任教員が担当する授業を対象に年間を通して実施する。参観者は参観後に報告書を作成し、授業担当者へフィードバックする。なお、報告書はOhka Good Practice制度（授業に係る評価の高い教育実践者を表彰する制度）の審査のための資料となる。

a-3 Ohka Good Practice制度（授業に係る評価の高い教育実践者を表彰する制度）

学生の学修意欲の向上を促進する教育効果の高い教育実践を教員間で共有し、教授方法の向上に資することを旨として、【Ohka Good Practice(OGP)】を2022年度にスタートさせ、2023年度以降本格的に運用している。評価基準は「A：理解・目標達成（DP）」、「B：意欲・興味・（質問対応）」、「C：環境（学習環境）教材・ICT」と3つ設定し、年度毎に重点テーマを決定する。相互授業参観における評価及び授業アンケートによる評価を資料として選考する。

a-4 中間授業アンケート、期末授業アンケート

中間授業アンケートは、各学期中間段階での学生の反応を確認し、早期に対象学生に合わせた授業を展開できるよう軌道修正することを目的とする。期末授業アンケートは、各学期の総括及び次年度の授業改善への具体的・効果的の指針を得ることを目的とする。期末授業アンケート回答集計後には、授業担当者へ授業改善アンケートの提出を求める。

a-5 FD委員会報告書

1年間のFD活動のまとめとして報告書を作成。関係者へ本活動を周知するとともに、今後の活動の改善への足掛かりとする。

b 実施方法

b-1 FSD研修会

年1回以上実施。テーマに関して造詣の深い講師を招聘する講演や、数名のパネラーによる研究討議等にて内容を構成する。

b-2 相互授業参観

前期、後期の冒頭に、教授会にてFD委員長が当該企画について説明、参加を促す。参観者は、参観を希望する授業の担当者へ事前許可を得て参観、後日、報告書を提出する。報告書は授業担当者と共有される。実施状況は各学科で共有され、教授方法の向上とともに参観数の増加を目指す。

b-3 Ohka Good Practice制度（授業に係る評価の高い教育実践者を表彰する制度）

年度ごとに設定される重点テーマ基準に、相互授業参観の報告書による推薦を募る。推薦された授業はFD委員が2次参観もしくは授業者からの聞き取りを行い、授業アンケート結果を含めて選考する。認定された授業担当者は3月に表彰され、簡潔に実践報告をする。なお、該当者に授業改善への貢献を認め、翌年の研究費が3万円増額される。

b-4 中間授業アンケート、期末授業アンケート

対象科目：どちらも、履修者数5名以上の全開講科目
実施時期：各学期中間授業アンケート＝第6回目の授業、各学期期末授業アンケート＝14～15回目の授業
実施方法：どちらも、LMSを利用
集計方法：どちらも、科目・クラスごとに各設問を集計。
※期末授業アンケートについては、学部・学年ごとに各設問の平均を算出し、HPへ経年変化を公開。
開示方法：どちらも、LMSを利用
※なお、授業担当者へ依頼する授業改善アンケートも、LMSを利用して提出。

b-5 FD委員会報告書

4～5月に、前年度の活動実績や課題をまとめ、報告書として発行する。発行月の教授会にて、FD委員長より当該報告書の発行を周知する。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

c-1 FSD研修会

（令和6年度）

テーマ：進化し続けるキャンパス、困難な時代の突破力とは
～共学化、分野横断、リカレント教育…時代に応じたブランディング力と発信力～
日時：6月26日（水）13時10分～14時20分
内容：講演（外部講師）
参加状況：本学専任教職員の75%

c-2 相互授業参観

（令和6年度）

参観数：37件（年間、全学）
期間：前期5月～6月、後期11月～12月

c-3 Ohka Good Practice制度（授業に係る評価の高い教育実践者を表彰する制度）

本年度の観点は【環境（学習環境）教材・ICT】であった。令和6年度に実施された相互授業参観のうち、OGPIに推薦があったものは、5件であった。FD委員による2次参観も行われ、授業アンケートの回答率も50%以上あったため、選出要件を満たした。そこで一つの授業を選出するため学生による授業アンケートの【教材の使いかた】の項目を参考にし、最も高い評価を得た授業をOGPとして選出した。

c-4 中間授業アンケート、期末授業アンケート

令和6年度は、中間授業アンケートは5月と10～11月、期末授業アンケートは7月と1月に実施。中間授業アンケートは各学期後半の授業で学生と授業担当者が結果を共有し、授業方法の改善に資した。期末授業アンケートは各学期の総括として学部・学年ごとに各設問の平均をHPへ公開し、次年度の授業改善への具体的・効果的指針となった。なお、年度末には、学生と専任教員が懇談の場を持ち、期末授業アンケートの結果を共有するとともに授業の具体的な改善要望について意見交換を行った。

c-5 FD委員会報告書

令和7年度4月に、令和6年度の活動報告書を発行し、学内ネットワーク上で公開した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

d-1 FSD研修会

招聘講師が所属する大学は、過去に学園倒産報道が出るという危機を迎えながらも危機を乗り越え、今でも「改革」を続ける総合大学として存在価値を高めている。結果として、社会の変化に対応した積極的な学部学科新設・改組を実施し、現在も学生増の状況が見られる。講話の要点は以下の4つにまとめられる。

1. 企画戦略室という組織の中で、社会の変化、ニーズなどに関するデータ分析や情報収集を十分にしていること
2. それに基づいたマスタープランの作成と具体的展開を構想していること
3. 中長期計画作成において、見えてきた課題や必要な修正点を次のプランに反映させ、大学のめざすところを明確にしていること
4. 改革に教職員が積極的に関与していくこと

そして今後の課題として、次の6点が示された。

- ①情報・工学系研究科を起点としたAI時代の社会課題解決
- ②メディア／アート・通信教育を起点とした、新たな教育展開と地域創造
- ③医工連携を強化し、人々の健康増進・地域社会の医療充実に貢献
- ④社会へ新たな教育保育の提案
- ⑤世界とのつながり強化に向けて総合的な国際政策の実行
- ⑥改革を支える、成長し続ける組織の構築、文化の醸成

本学も男女共学化、新学部設置など、改革の真ただ中にあり学ぶべき点が多かった。また研修会の開催方法（FD とSD を分けるか、講演会形式or ワークショップ形式 等）については検討が必要である。

d-2 相互授業参観

本年度の参観数は、昨年度（33件）から微増した。FD委員会による働きかけが徐々に浸透し相互授業参観に対する教員の意識は向上していること、OGPの選出の条件になっていることに起因していると想定されるが、学部によって件数に差異があることは課題である。今年度の相互授業参観の特徴は次の4点と考えられる。

- ①授業への意欲を高めるための導入の工夫
- ②受講生数と教室の大きさとの調整
- ③授業への参加意識とグループワークの充実
- ④前時の振り返り、フィードバックの効果的な扱いをどうするか

これらの点から授業改善の方向性とあり方を考え合い、来年度の相互授業参観の充実につなげていきたい。

d-3 Ohka Good Practice制度（授業に係る評価の高い教育実践者を表彰する制度）

昨年度は、OGPの推薦はあったものの学生の授業アンケートの回答率が50%に満たすという条件に合わずOGPの候補はなかった。本年度は条件を満たした候補者を選出することができた。相互参観の実施率が上がったこと、学生の授業アンケートの回答率を上げるためにいろいろ工夫をした効果である。授業改善に資する取組の一環として、今後も様々な仕掛けを検討・継続する。

d-4 中間授業アンケート、期末授業アンケート

中間授業アンケートは各学期後半の授業で直接的に授業方法の改善に資することができた。期末授業アンケートは各設問の平均点を概観すると8割以上の学生がポジティブな回答をしている。両アンケートは有機的に連携し、機能していることが推測される。課題としては、期末授業アンケートにおいて経年的に低迷している回答率を上げ、より実効性のある取組とすることが挙げられている。中間アンケート・授業アンケートとアンケート続きであることが学生の回答意欲を下げる要因になっていると考えられるため、アンケートの内容、質問項目数、アンケートの実施方法などの工夫が必要である。

d-5 FD委員会報告書

1年間のFD活動を振り返ることで、今後の活動への課題を可視化することができた。令和7年度第1回のFD委員会では、報告書をもとに、1年間の活動内容を次のとおり決定した。これまでの活動を継続し、各取組の効果を高めるよう検討する。

- ① FD研修会の開催
- ② 「PROG テスト」（教育保育学部）、社会人基礎能力測定（国際学部）の実施による課題抽出と授業改善への具体的展開
- ③ 各学部間における相互授業参観の実施とOGPの選出
- ④ 中間授業評価アンケートの実施
- ⑤ 期末授業評価アンケートの実施率の向上の取り組み
- ⑥ FD 関連出張（大学教育研究フォーラム）を通じた最新課題を報告・共有

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

毎学期末、履修者数5名以上の全開講科目を対象に実施。回答は本学学修支援システムにおいて学生、授業担当者全員で共有し、授業担当者は回答を閲覧の後、次学期授業への反映を目指し授業改善アンケートを提出する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

本学学修支援システムにおいて、授業担当者及び履修者が授業アンケート回答および授業改善アンケートを閲覧できるよう整備している。また、2018年度以降の授業アンケート各項目平均値を学科学年ごとにまとめHPにて公開。経年比較により中長期的視野にたつ授業改善を試みる。集計結果を基にした授業実施状況の考察はFD委員会報告書に掲載し、今後の活動への課題を全学で共有し、授業改善のための取り組み材料としている。

(注) ・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項 該当なし

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学部は、「地域・国際社会に関する幅広い知識と語学力を生かしたコミュニケーション能力」および「多岐にわたるグローバルな問題を解決するための論理的・創造的な思考力と主体的・実践的な対応能力」を持った人材育成を目的とする。これを実現するために、学生には、文化的、国際交流の場で必要となる社会文化的な把握が的確にできる力を修得させる。そして、国際化するビジネス分野で必要とされるビジネス活動、マーケティング、観光産業、韓国文化等の実践的基礎知識を持ち、ビジネス分野での課題の設定や問題解決能力、提案能力、交渉能力を身に付けさせる。さらに、グローバル社会における課題を認識し、文化・言語・人間・教育に関する諸問題を理解する能力を身に付けさせる。

設置初年度である令和6年度（2024年度）に引き続き、「異なる世界の人々をお互いの文化理解によって結びつけたいと思っている学生」、「グローバルな課題に対して主体的に取り組みたいと思っている学生」、「社会のニーズに対応できる教養・情報力及びコミュニケーション能力を身につけたいと思っている学生」、「他者と協働しながら地域及び国際社会の発展に貢献したいと思っている学生」をアドミッションポリシーとして掲げ、広く学生募集を行った。入学試験においてこれら要件に合致する人材を選抜し、令和7年度（2025年度）においては、定員を上回る入学者を確保することができた。

申請書に従い適正に遂行していると同時に、入学者確保のための入試傾向分析と対策の検討、カリキュラムの検証、各部所間の協力連携体制の強化、学生の学修状況の検証、就職指導の体系化、学生交流制度の実施及び企画等、より良い教育の実現のため、不断に検討している。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・ 令和7年5月

b 公表方法

・ 大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

・ 令和12年度に評価機関（公益財団法人日本高等教育評価機構）の評価を受ける予定で検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和7年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ 無]

《 aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ☒ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [☒ ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

桜花学園大学 国際学部 メジャー・マイナー専攻の認定に関する内規

Bylaw for the major and minor rule for GS students

(準拠) Accordance

第1条 この内規は、本学学則に基づき、メジャー・マイナー専攻の認定に関する事項について定めるものとする。

This bylaw is applied for the major and minor rules for students to be followed, based on Ohka school regulations.

(認定の要件) Requirement for major and minor credits.

第2条 専攻認定の要件は、次によるものとする。

Regarding the approval of credits for major and minor courses, students must follow what are written here.

- 1 本学部の卒業に必要なメジャー専攻とマイナー専攻の組み合わせは、異なる専攻によるものとする。ただし、メジャー専攻とマイナー専攻を韓国専攻にする場合はこの限りではない。

The combination of major and minor should be two different categories except for the combination of Korean major and Korean minor.

- 2 メジャー専攻は、一つの専攻より 30 単位以上の取得を要件とする。

Students must choose 30 or more credits in one category as their major.

- 3 マイナー専攻は、一つの専攻より 20 単位以上の取得を要件とする。ただし、メジャー専攻とマイナー専攻のいずれも韓国専攻を希望する場合のマイナー専攻は、韓国専攻より 10 単位以上を取得し、さらに不足分の単位は、その他の専攻より取得することを要件とする。

Students must choose their Major and Minor category. The two categories should be different ones except for a Korean major and Korean minor case.

Students should take 30 or more credits as their major.

Students should take 20 or more credits as their minor, but in the case they prefer the Korean major and Korean minor, they must take 10 or more credits from the Korean category and they need to take necessary number of credits from other categories.

(認定の手続き) Procedure for deciding /change major and minor

第3条 希望する専攻の申請は、メジャー専攻及びマイナー専攻のいずれにおいても、2 年次前期の履修登録期間終了日までに行う。

Students must decide and enroll both of their major and minor by the last day of their 2nd year spring course registration period.

- 1 前項において申請した専攻を変更できるのは、メジャー専攻の場合は2年次後期の履修登録期間終了日まで、マイナー専攻の場合は3年次前期の履修登録期間終了日までとする。

When students need to change their major and/or minor, it is allowed to do it by the last day of their 2nd year fall course registration period, for the major case. And it is allowed to do it by the last day of their 3rd year spring course registration period, for the minor case.

- 2 前項に定める期間以降の変更は、原則、認めないこととする。

In principle, students are not allowed to change their major and minor after the designated dates written in 1 of this article.

- 3 申請した専攻の認定は、卒業判定教授会の義を経て行う。

The final major and minor approval shall be through the school faculty meeting for graduation approval.

(留学の専攻認定) Overseas major

- 第4条 ダブル・ディグリー留学による専攻の認定については、この限りではない。

The case of Double-Degree major approval will not always follow this bylaw.

(改廃) Revision and abolition

- 第5条 この内規の改廃は、教授会の義を経て行う。

The revision and abolition should happen only when they are discussed and approved through a faculty meeting.

(その他) Others

- 第6条 この内規に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

Other necessary things besides what are included in this bylaw, can be discussed and approved apart from this.

(付則) Supplementary provisions

1. この内規は、令和7年4月1日から施行する。

This bylaw is valid after April 1st, 2025

(趣旨)

第1条 この要項は、桜花学園大学国際学部の学生で在学時に各種検定試験等を受験した者に対する支援金の給付に関し、必要な事項を定めるものとする。

(対象検定試験及び支援金額)

第2条 支援金の給付対象となる検定試験及びその支援金額は、別表のとおりとする。

(対象者)

第3条 支援金の給付対象者は、国際学部の学生のうち、次の各号のいずれにも該当する者とする。

- (1) 各年度内に対象となる検定試験を受けたものであること。
- (2) 同年度内に同一試験に対する支援金給付を受けていないこと。

(給付手続)

第4条 別表に定める検定試験を受験し、支援金の給付を受けようとする者は、検定試験受験料支援金給付申請書（別記様式。以下「申請書」という。）に、当該検定試験の受験結果を証明する書類の複写本を添付して事務局に提出することとする。

- 2 同一検定試験の併願は、いずれか 1 回分の受験料のみ支援することとする。
- 3 欠席（未受験）は支援の対象外とする。

(提出期限)

第5条 支援金の支給の申請ができるのは、各年度 4 月 1 日から翌年の 2 月末までに受験結果が出ている試験につき 1 回までとする。

- 2 各年度とも 2 月末までに検定試験の結果が間に合わなかった場合は、翌年度中に申請することを可能とする。ただし、卒業年度における受験に対する申請の場合は除く。
- 3 前項の場合、前年度の申請回数分として算定することとする。

(支援金の返還)

第6条 支援金の給付を受けた者が不正により支援金を受けたことが判明したときは、支援金を返還させるものとする。

- 2 前項により支援金の返還を命ぜられた者は、指定した期限までにその額を返還しなければならない。

(要項の改廃)

第7条 この要項の改廃は、学部教授会の議を経て行う。

(その他)

第8条 受験料請求が受験後に発生し、かつ、大学が受験生の受験可否について把握できる試験については、この限りではない。

- 2 この要項に定めるもののほか、支援金の給付に関し必要な事項は、別に定める。

(付則)

この要項は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。

(別表)

支援の対象となる検定試験及びその給付金額

* 2024 年 12 月現在

検定試験名		給付金額 (円)
CASEC テスト代		2,600 円
E PT 発音テスト		9,900 円
IELTS		27,500 円
TOEIC LR		7,810 円
TOEIC SW		10,450 円
TOPIK	I (初級)	5,000 円
	II (中上級)	7,000 円
中国語検定	3 級	5,800 円
	4 級	4,800 円
国内旅行業務取扱管理者試験		5,800 円
総合旅行業務取扱管理者試験		6,500 円
ニュース検定	ニュース時事能力検定 (3 級)	3,800 円
	ニュース時事能力検定 (準 2 級)	4,300 円
	ニュース時事能力検定 (2 級)	5,300 円
	ニュース時事能力検定 (1 級)	7,400 円

※上記表は参考であり、給付金額は実際に検定料として支払った金額とする。

【参考 2025 年度予算申請額】

- ・CASEC テスト代 (1 年生 + 2 年生 101 人) 262,600 円
- ・E PT 発音テスト (10 人) 99,000 円
- ・IELTS (5 人) 137,500 円
- ・TOEIC LR (1 年 2 回) 313,000 円
- ・TOEIC SW (10 人) 81,150 円
- ・TOPIK 初級 (40 人) 200,000 円
- ・TOPIK 中上級 (20 人) 140,000 円
- ・中国語検定 3 級 (5 人) 29,000 円
- ・中国語検定 4 級 (15 人) 72,000 円
- ・国内旅行業務取扱管理者試験 (5 人) 29,000 円
- ・総合旅行業務取扱管理者試験 (2 人) 13,000 円
- ・ニュース時事能力検定 (3 級) (10 人) 38,000 円
- ・ニュース時事能力検定 (準 2 級) (5 人) 21,500 円
- ・ニュース時事能力検定 (2 級) (5 人) 26,500 円
- ・ニュース時事能力検定 (1 級) (3 人) 22,200 円

国際学部 各種資格・検定取得及び受賞による単位認定に関する取扱申し合わせ事項

(趣旨)

第1条 この申し合わせ事項は、桜花学園大学学則第34条に基づき、各種資格・検定取得及び受賞（以下検定取得という。）による単位認定制度に関する事項を定める。

(検定試験の種類と認定基準)

第2条 この申し合わせ事項で単位認定の対象となる検定取得の種類及び認定基準ならびに対応する授業科目は、別表1のとおりとする。

2 別表1については、教務委員会の議を経て、教授会で決定する。

(認定単位の取扱い)

第3条 設定された単位は、教育課程表の科目区分において所定の単位数を卒業に必要な単位に含めることができる。ただし、既に修得した授業科目は除く。

2 他の科目の認定で使用した証明書を二重に使用することはできない。

3 検定取得により認定された科目の単位は、GPA制度の対象から除く。

4 検定取得により認定された科目の単位は、履修登録上限制限に含まない。

5 検定取得により認定された科目の単位は、申請を受けた学期の成績として反映する。

6 認定された単位の成績評価は、「認定」とする。

7 単位認定の可否については、教務委員会の議を経て、教授会で決定する。

8 虚偽の申請であることが判明した場合は、単位認定を取り消すとともに学則が定める懲戒の対象となる行為と見なす。

(認定の対象とする資格・検定の有効期間)

第4条 申請日を基準にして過去1年以内に取得し、かつ所定の期日までに証明書の原本及び複写本（以下、証明書という。）を提出することを原則とする。

2 1年生の場合は、入学年を起点とした過去3年間に取得した証明書も認定対象とする。

3 一度申請された級位と同等あるいは下回る級位による申請を認めない。ただし、1年生前期はこの限りではない。

(申請の手続)

第5条 単位認定を受けようとする者は、毎学期の履修登録期間中に、「単位認定申請書」に証明書を添付し、教務課を経て学部長に提出しなければならない。ただし、1年生の過去3年間に取得した証明書については、1年生前期履修登録期間中に限り申請することができる。

2 単位認定の対象となる科目については履修登録期間中の登録は行わない。

3 提出した証明書は返却することができる。

(改廃)

第6条 この申し合わせ事項の改廃は、教授会の議を経て行う。

(その他)

第7条 この申し合わせ事項の運用に関わる必要事項は別に定めることができる。

付則

1 この申し合わせ事項は令和6年4月より施行する。

2 この申し合わせ事項は令和7年4月より施行する。

【別表 1】 各種検定・資格取得及び受賞の単位換算表

種目・言語	試験の種類・認定スコア・級位		認定科目	認定 単位数
英語	英検	準 1 級、1 級	Speaking I、Speaking II、 Reading I、Reading II のいずれか	1
		1 級	Communicative English I、 Communicative English II のいずれ か	1
	IELTS S	5.0以上 5.5未満	Speaking I、Speaking II のいずれ か	1
		5.5以上	Communicative English I、 Communicative English II のいず れか	1
	TOEIC® S	160点以上 190点未満	Speaking I、Speaking II のいずれ か	1
		190点以上	Communicative English I、 Communicative English II のいず れか	1
	TOEIC® L&R	250点以上 300点未満	英語資格講座 I A	1
		300点以上 500点未満	英語資格講座 II A	1
		500点以上 550点未満	英語資格講座 I B	1
		550点以上 600点未満	英語資格講座 II B	1
		600点以上 700点未満	英語資格講座 I C	1
		700点以上	英語資格講座 II C Speaking I、Speaking II のいず れか	1
	TOEIC® R	385点以上	Reading I、Reading II のいずれか	1
韓国語	ハングル検定試 験	4級、3級	検定韓国語初級 A、または、 検定韓国語初級 B、のいずれか	1
		準2級	検定韓国語中級 A、または、 検定韓国語中級 B、のいずれか	1
		2級、1級	検定韓国語上級 A、または、 検定韓国語上級 B、のいずれか	1
	TOPIK（韓国語 能力試験）	2級、3級	検定韓国語初級 A、または、 検定韓国語初級 B、のいずれか	1
		4級、5級	検定韓国語中級 A、または、 検定韓国語中級 B、のいずれか	1
		6級	検定韓国語上級 A、または、	1

			検定韓国語上級 B、のいずれか	
	本学学内の韓国語スピーチ大会入賞者		韓国語リスニング&スピーキング	2
	本学学内の韓国語作文大会入賞者		韓国語リーディング&ライティング	2
	学外の韓国語スピーチ大会入賞者		韓国語プレゼンテーション	2

申請書サンプル

以下の申請書に、必要事項を記入の上、証明書（原本）を添えて提出すること。

原本の返却を希望する者は、下記に記入欄に○つけすること。

学籍番号	
氏名	
記入日	年 月 日
検定・資格・大会名	
スコア・級（レベル）・賞	
証明書の返却希望	する しない
認定を希望する科目名	第一希望
*審査結果によって希望に添えないことがあります。	第二希望
証明書書式等	教務課記入欄（学生は記入しない）
認定結果	教務課記入欄（学生は記入しない）

【参考】

桜花学園大学学則

（大学以外の教育施設等における学修）

第34条 短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、教育上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修とみなし、所定の単位を与えることができる。

2 前項の規定により与えることのできる単位数は、前条第1項により修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。ただし、保育士養成にかかわる授業科目についての単位認定は、第35条に定める入学前の単位認定を含めて30単位を超えない範囲

とする。

平成二十九年文部科学省令第三十三号

【専門職大学設置基準第26条第3項・専門職短期大学設置基準第23条第3項】

〔実務の経験を通じた実践的な能力の修得に対する単位認定〕

専門職大学等においては、学生が、専門性が求められる職業に係る実務の経験を通じ当該職業を担うための実践的な能力を入学前に修得している場合において、教育上有効と認めるときは、文部科学大臣が別に定めるところにより、当該実践的な能力の修得を授業科目の履修とみなして、一定の単位数（4年制；30単位まで／2年制；15単位まで、3年制；23単位まで）の範囲で専門職大学等の定めるところにより、単位を与えることができる。

大学設置基準

（大学以外の教育施設等における学修）

第二十九条 大学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、当該大学における授業科目の履修とみなし、大学の定めるところにより単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第一項及び第二項により当該大学において修得したものとみなす単位数と合わせて六十単位を超えないものとする。

教育保育学部 教育保育学科

新 規 (2025 年 4 月～)

公募制推薦 A (国語＋面接)

教育・保育専門職をめざす上で必要な基礎学力を測るため、国語の適性検査を行う。また、資質・能力・基礎知識と学びに対する意欲、また高等学校での学習到達度を測るため、面接試験を行う。所属学校長による推薦を受けた者を対象とする。

公募制推薦 B (英語＋面接)

教育・保育専門職をめざす上で必要な基礎学力を測るため、実用英語技能検定による英語力の審査を行う。また、資質・能力・基礎知識と学びに対する意欲、また高等学校での学習到達度を測るため、面接試験を行う。所属学校長による推薦を受けた者を対象とする

公募制推薦 D (国語・英語)

教育・保育専門職をめざす上で必要な基礎学力を測るため、国語と英語の適性検査を行う。所属学校長による推薦を受けた者を対象とする。

専門・総合学科公募制推薦 A (国語＋面接)

教育・保育専門職をめざす上で必要な基礎学力を測るため、国語の適性検査を行う。また、資質・能力・基礎知識と学びに対する意欲、また高等学校での学習到達度を測るため、面接試験を行う。所属学校長による推薦を受けた者を対象とする。

専門・総合学科公募制推薦 B (英語＋面接)

教育・保育専門職をめざす上で必要な基礎学力を測るため、実用英語技能検定による英語力の審査を行う。また、資質・能力・基礎知識と学びに対する意欲、また高等学校での学習到達度を測るため、面接試験を行う。所属学校長による推薦を受けた者を対象とする。

専門・総合学科公募制推薦 D (国語・英語)

教育・保育専門職をめざす上で必要な基礎学力を測るため、国語と英語の試験を行う。所属学校長による推薦を受けた者を対象とする。

新 規 (2025 年 4 月～)
公募制推薦 A (国語 + 面接) 教育・保育専門職をめざす上で必要な基礎学力を測るため、国語の適性検査を行う。また必要な基礎的諸能力・意欲・適性ならびに高等学校での学習到達度を測るため、面接試験を行う。所属学校長による推薦を受けた者を対象とする。 公募制推薦 D (国語・英語) 教育・保育専門職をめざす上で必要な基礎学力を測るため、国語と英語の適正検査を行う。所属学校長による推薦を受けた者を対象とする。 専門・総合学科公募制推薦 A (国語 + 面接) 教育・保育専門職をめざす上で必要な基礎学力を測るため、国語の適性検査を行う。また必要な基礎的諸能力・意欲・適性ならびに高等学校での学習到達度を測るため、面接試験を行う。所属学校長による推薦を受けた者を対象とする。 専門・総合学科公募制推薦 D (国語・英語) 教育・保育専門職をめざす上で必要な基礎学力を測るため、国語と英語の適性検査を行う。所属学校長による推薦を受けた者を対象とする。

新 規 (2025 年 4 月～)
公募制推薦 A (国語 + 面接) 幅広い知識と論理的・創造的な思考力及びグローバル化した社会における主体性かつ協調性を持った人材としての能力・意欲・適性及び高校時の学修成果を測るため、高等学校長による推薦書を含む所定の書類を審査し、国語の適性検査ならびに日本語による面接試験を行う。 公募制推薦 B (英語 + 面接) 幅広い知識と論理的・創造的な思考力及びグローバル化した社会における主体性かつ協調性を持った人材としての能力・意欲・適性及び高校時の学修成果を測るため、高等学校長による推薦書を含む所定の書類、ならびに実用英語技能検定による英語力の審査、日本語による面接試験を行う。 専門・総合学科公募制推薦 A (国語 + 面接) 幅広い知識と論理的・創造的な思考力及びグローバル化した社会における主体性かつ協調性を持った人材としての能力・意欲・適性及び高校時の学修成果を測るため、高等学校長による推薦書を含む所定の書類を審査し、国語の適性検査ならびに日本語による面接試験を行う。 専門・総合学科公募制推薦 B (英語 + 面接) 幅広い知識と論理的・創造的な思考力及びグローバル化した社会における主体性かつ協調性を持った人材としての能力・意欲・適性及び高校時の学修成果を測るため、高等学校長による推薦書を含む所定の書類、ならびに実用英語技能検定による英語力の審査、日本語による面接試験を行う。

新 規（2025 年 4 月～）
公募制推薦 A（国語＋面接） 保育者をめざす上で必要な適性を測るため、国語の適性検査を行う。また高等学校での学習到達度を測るため面接試験を行う。所属学校長による推薦を受けた者を対象とする。 公募制推薦 C（課題文設問型小論文＋面接） 保育者をめざす上で必要な資質・能力・基礎知識と学びに対する意欲を測るため、課題文設問型の小論文試験と面接試験を行う。所属学校長による推薦を受けた者を対象とする。 専門・総合学科公募制推薦 A（国語＋面接） 保育者をめざす上で必要な適性を測るため、国語の適性検査を行う。また高等学校での学習到達度を測るため面接試験を行う。所属学校長による推薦を受けた者を対象とする。 専門・総合学科公募制推薦 C（課題文設問型小論文＋面接） 保育者をめざす上で必要な資質・能力・基礎知識と学びに対する意欲を測るため、課題文設問型の小論文試験と面接試験を行う。所属学校長による推薦を受けた者を対象とする。

変更後（2025 年 4 月～）	変更前
資格取得支援評価型 幅広い教養を身につけるための基礎になる思考力・理解力・判断力と、これまでの取り組みと入学後の資格取得、検定試験に対する意欲を測るため、高等学校長による推薦書を含む所定の書類の審査と面接試験を行う。	キャリアデザイン評価型 幅広い教養を身につけるための基礎になる思考力・理解力・判断力と、これまでの経験によって培われた将来を切り開く力を測るため、高等学校長による推薦書を含む所定の書類を審査し、キャリアデザイン自己評価書に基づくプレゼンテーションの審査と面接試験を行う。

学校法人桜花学園 事務組織及び事務分掌規程の一部変更について（案）

1. 改正理由
桜花学園大学・名古屋短期大学の組織改編のしたため。
2. 改正箇所
桜花学園大学・名古屋短期大学 共通
学務部 教務課・学生課を統合再編して、学生支援課を新設する。
総務部 庶務会計課を総務課に改名する。
3. 施行日を明確にするため、附則を変更する。
4. 改正年月日 令和7年4月1日

5. 新旧対照表

改 正	現 行
第1条 (略) 第1章 事務組織 第2条 (略) (桜花学園大学) 第3条 桜花学園大学の事務組織は次のとおりとする。 <pre> graph LR SJ[事務局] --- SB[総務部] SJ --- SB2[学務部] SJ --- SB3[入試広報部] SB --- SK[総務課] SB --- SK2[図書課] SB --- SK3[大学附置研究所部門] SB2 --- SK4[学生支援課] SB3 --- SK5[入試広報課] SB3 --- SK6[渉外課] </pre> 2項 ～ 9項 (略)	第1条 (略) 第1章 事務組織 第2条 (略) (桜花学園大学) 第3条 桜花学園大学の事務組織は次のとおりとする。 <pre> graph LR SJ[事務局] --- SB[総務部] SJ --- SB2[学務部] SJ --- SB3[入試広報部] SB --- SK[庶務会計課] SB --- SK2[図書課] SB --- SK3[大学附置研究所部門] SB2 --- SK4[教務課] SB2 --- SK5[学生課] SB3 --- SK6[入試広報課] SB3 --- SK7[渉外課] </pre> 2項 ～ 9項 (略)
(名古屋短期大学) 第4条 名古屋短期大学の事務組織は次のとおりとする。 <pre> graph LR SJ[事務局] --- SB[総務部] SJ --- SB2[学務部] SJ --- SB3[入試広報部] SB --- SK[総務課] SB --- SK2[図書課] SB --- SK3[大学附置研究所部門] SB2 --- SK4[学生支援課] SB3 --- SK5[入試広報課] SB3 --- SK6[渉外課] </pre> 2項 ～ 8項 (略)	(名古屋短期大学) 第4条 名古屋短期大学の事務組織は次のとおりとする。 <pre> graph LR SJ[事務局] --- SB[総務部] SJ --- SB2[学務部] SJ --- SB3[入試広報部] SB --- SK[庶務会計課] SB --- SK2[図書課] SB --- SK3[大学附置研究所部門] SB2 --- SK4[教務課] SB2 --- SK5[学生課] SB3 --- SK6[入試広報課] SB3 --- SK7[渉外課] </pre> 2項 ～ 8項 (略)
第5条 ～ 第6条 (略)	第5条 ～ 第6条 (略)

第2章 事務分掌	第2章 事務分掌
第7条 (略) (桜花学園大学) 第8条 桜花学園大学の事務分掌は次のとおりとする。 総務部<u>総務課</u>の事務分掌 1. 学長印等の保管、管理に関すること。 2. 会議、行事、式典に関すること。 3. 教職員の勤務、出張、福利厚生等に関すること。 4. 文書の授受、配布、発送に関すること。 5. 諸規程の整理、保存に関すること。 6. 調査、統計に関すること。 7. 消耗品等の購入に関すること。 8. 施設、設備、備品等の管理に関すること。 9. 予算に関すること。 10. 現金の出納、保管に関すること。 11. 学費等の収納に関すること。 12. 関係帳簿の作成、保管に関すること。 13. その他庶務会計に関すること。 総務部図書課の事務分掌 1 ～ 6 (略) 総務部大学附置研究所部門の事務分掌 1 ～ 4 (略) 学務部学生支援課の事務分掌 <u>教務に関する事務分掌</u> 1. 教育課程に関すること。 2. 時間割編成及び授業運営に関すること。 3. 試験及び履修単位に関すること。 4. 学籍簿及び成績簿に関すること。 5. 入学、退学、休学、復学及び卒業に関すること。 6. 聴講生に関すること。 7. 証明書類に関すること。	第7条 (略) (桜花学園大学) 第8条 桜花学園大学の事務分掌は次のとおりとする。 総務部<u>庶務会計課</u>の事務分掌 1. 学長印等の保管、管理に関すること。 2. 会議、行事、式典に関すること。 3. 教職員の勤務、出張、福利厚生等に関すること。 4. 文書の授受、配布、発送に関すること。 5. 諸規程の整理、保存に関すること。 6. 調査、統計に関すること。 7. 消耗品等の購入に関すること。 8. 施設、設備、備品等の管理に関すること。 9. 予算に関すること。 10. 現金の出納、保管に関すること。 11. 学費等の収納に関すること。 12. 関係帳簿の作成、保管に関すること。 13. その他庶務会計に関すること。 総務部図書課の事務分掌 1 ～ 6 (略) 総務部大学附置研究所部門の事務分掌 1 ～ 4 (略) 学務部<u>教務課</u>の事務分掌 1. 教育課程に関すること。 2. 時間割編成及び授業運営に関すること。 3. 試験及び履修単位に関すること。 4. 学籍簿及び成績簿に関すること。 5. 入学、退学、休学、復学及び卒業に関すること。 6. 聴講生に関すること。 7. 証明書類に関すること。

8. その他教務に関すること。 <u>学生生活に関する事務分掌</u> 1. 学生の厚生補導に関すること。 2. 学生の自治活動、課外活動に関すること。 3. 学生の相談、助言及び指導に関すること。 4. 学生の奨学金に関すること。 5. 学生の就職、アルバイトに関すること。 6. 就職関係資料の作成、管理及び保存に関すること。 7. その他学生に関すること。 入試広報部入試広報課の事務分掌 1 ～ 4 (略) 入試広報部渉外課の事務分掌 1 ～ 2 (略) (名古屋短期大学) 第9条 名古屋短期大学の事務分掌は次のとおりとする。 総務部<u>総務課</u>の事務分掌 1. 学長印等の保管、管理に関すること。 2. 会議、行事、式典に関すること。 3. 教職員の勤務、出張、福利厚生等に関すること。 4. 文書の授受、配布、発送に関すること。 5. 諸規程の整理、保存に関すること。 6. 調査、統計に関すること。 7. 消耗品等の購入に関すること。 8. 施設、設備、備品等の管理に関すること。 9. 予算に関すること。 10. 現金の出納、保管に関すること。 11. 学費等の収納に関すること。 12. 関係帳簿の作成、保管に関すること。 13. その他庶務会計に関すること。 総務部図書課の事務分掌 1 ～ 6 (略)	8. その他教務に関すること。 学務部<u>学生課</u>の事務分掌 1. 学生の厚生補導に関すること。 2. 学生の自治活動、課外活動に関すること。 3. 学生の相談、助言及び指導に関すること。 4. 学生の奨学金に関すること。 5. 学生の就職、アルバイトに関すること。 6. 就職関係資料の作成、管理及び保存に関すること。 7. その他学生に関すること。 入試広報部入試広報課の事務分掌 1 ～ 4 (略) 入試広報部渉外課の事務分掌 1 ～ 2 (略) (名古屋短期大学) 第9条 名古屋短期大学の事務分掌は次のとおりとする。 総務部<u>庶務会計課</u>の事務分掌 1. 学長印等の保管、管理に関すること。 2. 会議、行事、式典に関すること。 3. 教職員の勤務、出張、福利厚生等に関すること。 4. 文書の授受、配布、発送に関すること。 5. 諸規程の整理、保存に関すること。 6. 調査、統計に関すること。 7. 消耗品等の購入に関すること。 8. 施設、設備、備品等の管理に関すること。 9. 予算に関すること。 10. 現金の出納、保管に関すること。 11. 学費等の収納に関すること。 12. 関係帳簿の作成、保管に関すること。 13. その他庶務会計に関すること。 総務部図書課の事務分掌 1 ～ 6 (略)
---	--

総務部大学附置研究所部門の事務分掌 1 ～ 2 (略) 学務部学生支援課の事務分掌 <u>教務に関する事務分掌</u> 1. 教育課程に関すること。 2. 時間割編成及び授業運営に関すること。 3. 試験及び履修単位に関すること。 4. 学籍簿及び成績簿に関すること。 5. 入学、退学、休学、復学及び卒業に関すること。 6. 聴講生に関すること。 7. 証明書類に関すること。 8. その他教務に関すること。 <u>学生生活に関する事務分掌</u> 1. 学生の厚生補導に関すること。 2. 学生の自治活動、課外活動に関すること。 3. 学生寮に関すること。 4. 学生の奨学金に関すること。 5. 学生の就職、アルバイトに関すること。 6. 就職関係資料の作成、管理及び保存に関すること。 7. その他学生に関すること。 入試広報部入試広報課の事務分掌 1 ～ 4 (略) 入試広報部渉外課の事務分掌 1 ～ 2 (略) 第 10 条 (略) 第 3 章 雑 則 (略)	総務部大学附置研究所部門の事務分掌 1 ～ 2 (略) 学務部<u>教務課</u>の事務分掌 1. 教育課程に関すること。 2. 時間割編成及び授業運営に関すること。 3. 試験及び履修単位に関すること。 4. 学籍簿及び成績簿に関すること。 5. 入学、退学、休学、復学及び卒業に関すること。 6. 聴講生に関すること。 7. 証明書類に関すること。 8. その他教務に関すること。 学務部<u>学生課</u>の事務分掌 1. 学生の厚生補導に関すること。 2. 学生の自治活動、課外活動に関すること。 3. 学生寮に関すること。 4. 学生の奨学金に関すること。 5. 学生の就職、アルバイトに関すること。 6. 就職関係資料の作成、管理及び保存に関すること。 7. その他学生に関すること。 入試広報部入試広報課の事務分掌 1 ～ 4 (略) 入試広報部渉外課の事務分掌 1 ～ 2 (略) 第 10 条 (略) 第 3 章 雑 則 (略)
---	--

附 則

1. この規程は昭和48年4月1日から施行する。
1. この規程（一部改正）は、昭和51年4月1日から施行する。
1. この規程（一部改正）は、昭和59年4月1日から施行する。
1. この規程（一部改正）は、昭和63年4月1日から施行する。
1. この規程（一部改正）は、平成2年4月1日から施行する。
1. この規程（一部改正）は、平成10年4月1日から施行する。
1. この規程（一部改正）は、平成11年4月1日から施行する。
1. この規程（一部改正）は、平成12年4月1日から施行する。
1. この規程（一部改正）は、平成14年4月1日から施行する。
1. この規程（一部改正）は、平成16年9月1日から施行する。
1. この規程（一部改正）は、平成17年4月1日から施行する。
1. この規程（一部改正）は、平成19年4月1日から施行する。
1. この規程（一部改正）は、平成21年4月1日から施行する。
1. この規程（一部改正）は、平成24年4月1日から施行する。
1. この規程（「副学長」への名称変更）は、平成26年4月1日から施行する。
1. この規程（組織の追加）は、令和2年4月1日から施行する。
1. この規程（組織の改組）は、令和7年4月1日から施行する。

桜花学園大学 F D 委員会規程

(設 置)

- 第 1 条 桜花学園大学学則第 3 条の規定に基づき、ファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development 「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」をいい、以下「F D」という) を実施するため、桜花学園大学 F D 委員会 (以下「委員会」という。) を置く。

(所 掌)

- 第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を取り扱う。
- (1) F D のための基本方針の策定に関する事項
 - (2) F D のための研修会等の開催に関する事項
 - (3) その他 F D に関する事項
 - (4) 1) ～3) について自己点検・評価を行い、定期的に大学評価委員会へ報告する。

(構 成)

- 第 3 条 委員会の構成は、次のとおりとする。
- (1) 構成は、教務部長、各学科より選出されたそれぞれ 1 名もしくは 2 名の委員及び教務課長とする。
 - (2) 委員長は、委員の互選により選出するものとする。

(会 議)

- 第 4 条 委員会の会議は、次のとおりとする。
- (1) 会議は、委員長が招集し、その議長となる。
 - (2) 会議は、委員の 3 分の 2 以上の出席により成立する。
 - (3) 会議の議決は、委員の 3 分の 2 以上の賛成による。
 - (4) 委員長は、委員の半数以上または教授会から会議の開催を求められた場合、会議を開催しなければならない。
 - (5) 委員会が必要と認める場合は、委員以外の教職員に会議への出席を求めることができる。

(事 務)

- 第 5 条 委員会の事務は、学務部が行う。

(制 定)

第 6 条 委員会は、この規程に定めるものの他、必要に応じて規則を定めることができる。

(改 廃)

第 7 条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

桜花学園大学 国際学部 F D 委員会規程

(準 拠)

第 1 条 この規程は、桜花学園大学国際学部教授会規程第 11 条に基づき、F D 委員会（以下「委員会」という。）に関する必要な事項について定める。

(目 的)

第 2 条 委員会は、国際学部の教職員の教育研究、職務能力の向上に関する事項について審議し、国際学部の F D 活動に関する計画を策定し、教育研究の発展に資することを目的とする。

(構 成)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 構成は、学科より選出されたそれぞれ 1 名もしくは 2 名の委員、事務局により選出される職員 1 名とする。
- (2) 委員長は委員の互選により選出するものとする。

(所掌事項)

第 4 条 委員会は、次の事項を審議し具体化する。

- (1) 授業評価に関する事項
 - (2) 授業の公開・交流に関する事項
 - (3) 教職員の研修に関する事項
 - (4) その他 F D 活動に関する事項
- (5) 1) ～4) について自己点検・評価を行い、定期的に大学評価委員会へ報告する。

(会 議)

第 5 条 会議は、委員長が招集し議長となる。

- 2 会議は、委員の 3 分の 2 以上の出席により成立する。
- 3 会議の議決は、出席委員の 3 分の 2 以上の賛成による。
- 4 委員長は、委員の半数以上または教授会から会議の開催を求められた場合、会議を開催しなければならない。
- 5 委員長は、委員会が必要と認める場合は、委員以外の教職員に会議への出席を求めることができる。

(報 告)

第 6 条 委員長は、審議の結果を教授会に報告しなければならない。

(事 務)

第 7 条 委員会の事務は、教務課が行う。

(規程の制定)

第 8 条 委員会はこの規程に定めるものの他、必要に応じて規程を定めることができる。

(改 廃)

第 9 条 この規程の改廃は、国際学部教授会の議を経て行う。

附 則

この規則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

この改定規程（学部名の変更）は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。なお、令和 6 年 3 月 31 日に学芸学部 に在籍する学生が卒業するまでは、当該学生に係る事項についても取り扱うものとする。